

アップグレードガイド

Novell. ZENworks. 11 サポートパック 2

2012 年 3 月 20 日

www.novell.com



保証と著作権

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容または本書を使用した結果について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また、本書の商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる明示的または黙示的な保証も否認し、排除します。また、本書の内容は予告なく変更されることがあります。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また、ノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる明示的または黙示的な保証も否認し、排除します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本契約の下で提供される製品または技術情報はすべて、米国の輸出管理規定およびその他の国の輸出関連法規の制限を受けます。お客様は、すべての輸出規制を遵守し、製品の輸出、再輸出、または輸入に必要なすべての許可または等級を取得するものとします。お客様は、現在の米国の輸出除外リストに掲載されている企業、および米国の輸出管理規定で指定された輸出禁止国またはテロリスト国に本製品を輸出または再輸出しないものとします。お客様は、取引対象製品を、禁止されている核兵器、ミサイル、または生物化学兵器を最終目的として使用しないものとします。ノベル製ソフトウェアの輸出に関する詳細については、[Novell International Trade Services の Web ページ \(http://www.novell.com/info/exports/\)](http://www.novell.com/info/exports/) を参照してください。弊社は、お客様が必要な輸出承認を取得しなかったことに対し如何なる責任も負わないものとします。

Copyright © 2012 Novell, Inc. All rights reserved. 本ドキュメントの一部または全体を無断で複写転載することは、その形態を問わず禁じます。

Novell, Inc.
1800 South Novell Place
Provo, UT 84606
U.S.A.
www.novell.com

オンラインマニュアル: 本製品とその他の Novell 製品の最新のオンラインマニュアルにアクセスするには、[Novell マニュアルの Web ページ \(http://www.novell.com/documentation\)](http://www.novell.com/documentation) を参照してください。

Novell の商標

Novell の商標一覧については、「[商標とサービスの一覧 \(http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html\)](http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html)」を参照してください。

サードパーティ資料

サードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。

目次

このガイドについて	7
1 ZENworks 11 SP2 の新機能	9
1.1 システム要件	9
1.1.1 プライマリサーバと管理対象デバイスのサポート	9
1.1.2 インベントリのみデバイスのサポート	10
1.1.3 管理ブラウザサポート	10
1.1.4 Apache Tomcat	10
1.1.5 仮想マシン環境	10
1.2 zman サービス	10
1.3 クイックタスクのオプションとステータス	10
1.4 既存のアップデートの適用	11
1.5 コンテキストを意識したダイナミックグループ	11
1.6 アセット管理	11
1.6.1 zman コマンドを使用した契約のインポート	11
1.6.2 ハイパーリンクを使用した ZENworks アセット管理ドキュメントの作成	11
1.7 アセットインベントリ	11
1.7.1 インベントリコレクションエディタ	12
1.7.2 ローカル製品の作成 / 削除権	12
1.7.3 管理者が定義したフィールドを使用したダイナミックデバイスグループの作成	12
1.8 バンドル管理	12
1.9 Endpoint Security Management	12
1.10 Full Disk Encryption	13
1.11 イメージング	13
1.12 場所	13
1.13 Macintosh サポート	13
1.13.1 アセットインベントリ	13
1.13.2 バンドル管理	14
1.13.3 レポートニング	14
1.13.4 リモート管理	14
1.13.5 検出と展開	14
1.13.6 管理クイックスタート	14
1.13.7 Macintosh 用の zac コマンド	14
1.14 パーソナリティマイグレーション	15
1.15 ポリシー管理	15
1.16 登録	15
1.17 リモート管理	15
1.18 ユーザ管理	16
2 ZENworks 11 SP2 へのプライマリサーバのアップグレード	17
2.1 アップグレードで行われる処理について	17
2.2 データベースに関する検討事項	18
2.3 アップグレード順序について	19
2.4 前提条件	21
2.4.1 管理ゾーンで最初のアップグレードを実行するための前提条件	21
2.5 リモート OEM Sybase SQL Anywhere データベースのアップグレード	23
2.6 プライマリサーバのアップグレード	24

2.6.1	GUIを使用したLinuxおよびWindowsサーバのアップグレード	24
2.6.2	コマンドラインを使用したLinuxサーバのアップグレード	37
2.7	ZENworks Reporting Serverのアップグレード	39
2.7.1	ZENworks 11 SP2 Reporting ServerのZENworks 10 Configuration Management SP3 Reporting Serverがインストールされているプライマリサーバへのインストール	40
2.7.2	ZENworks 11 SP2 Reporting ServerのZENworks 11 Reporting Serverがインストールされているプライマリサーバへのインストール	41
2.7.3	別のサーバへのZENworks 11 SP2 Reporting Serverのインストール	41
2.8	既知の問題	42
2.9	トラブルシューティング	42
3	ZENworks 11 SP2 へのサテライトと管理対象デバイスのアップグレード	45
3.1	サテライトまたは管理対象デバイスをアップグレードするための前提条件	45
3.2	サテライトと管理対象デバイスのアップグレード	46
3.3	既知の制限事項	47
4	ZENworks Virtual Appliance 11 SP2 へのアップグレード	49
4.1	ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance から ZENworks Virtual Appliance 11 SP2 へのアップグレード	49
4.1.1	アップグレード前のタスク	50
4.1.2	ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance から ZENworks Virtual Appliance 11 SP2 へのアップグレード	51
4.1.3	アップグレード後のタスク	54
4.2	ZENworks Virtual Appliance 11 から ZENworks Virtual Appliance 11 SP2 へのアップグレード	54
5	ZENworks Configuration Management	
	10.2.2./10.3.x 管理対象デバイスの管理上の考慮事項	55
5.1	ZENworks Configuration Management	
	10.3.x 管理対象デバイスを管理するための ZENworks 11 サーバの準備	55
5.2	ZENworks Configuration 10.2.2/10.3.x デバイス用最近接サーバールールの作成と管理	56
5.2.1	ZENworks Configuration 10.2.2/10.3.x デバイス用最近接サーバールールの作成	57
5.2.2	ZENworks Configuration 10.2.2/10.3.x デバイス用最近接サーバールールのバックアップ	67
5.3	既知の制限事項	67
A	マニュアルの更新	69
A.1	2012年3月20日: 11 SP2	69

このガイドについて

このガイドには、Novell ZENworks 11 SP2 で新しく強化された機能に関する情報と、このリリースへ正常にアップグレードする際に役立つ情報が記載されています。

このガイドの情報は、次のように構成されます。

- ◆ 9 ページの第 1 章「ZENworks 11 SP2 の新機能」
- ◆ 17 ページの第 2 章「ZENworks 11 SP2 へのプライマリサーバのアップグレード」
- ◆ 45 ページの第 3 章「ZENworks 11 SP2 へのサテライトと管理対象デバイスのアップグレード」
- ◆ 49 ページの第 4 章「ZENworks Virtual Appliance 11 SP2 へのアップグレード」
- ◆ 55 ページの第 5 章「ZENworks Configuration Management 10.2.2./10.3.x 管理対象デバイスの管理上の考慮事項」
- ◆ 69 ページの付録 A「マニュアルの更新」

対象読者

このガイドは、ZENworks 管理者を対象としています。

フィードバック

本マニュアルおよびこの製品に含まれているその他のマニュアルについて、皆様のご意見やご要望をお寄せください。オンラインヘルプの各ページの下部にあるユーザコメント機能を使用してください。

その他のマニュアル

ZENworks 11 には、製品について学習したり、製品を実装したりするために使用できるその他のマニュアル (PDF 形式および HTML 形式の両方) も用意されています。追加のマニュアルについては、ZENworks 11 SP2 マニュアル Web サイト (<http://www.novell.com/documentation/beta/zenworks11/>) を参照してください。

ZENworks 11 SP2 の新機能

1

Novell ZENworks 11 SP2 では、さまざまな機能が追加および強化されています。

- ◆ 9 ページのセクション 1.1 「システム要件」
- ◆ 10 ページのセクション 1.2 「zman サービス」
- ◆ 10 ページのセクション 1.3 「クイックタスクのオプションとステータス」
- ◆ 11 ページのセクション 1.4 「既存のアップデートの適用」
- ◆ 11 ページのセクション 1.5 「コンテキストを意識したダイナミックグループ」
- ◆ 11 ページのセクション 1.6 「アセット管理」
- ◆ 11 ページのセクション 1.7 「アセットインベントリ」
- ◆ 12 ページのセクション 1.8 「バンドル管理」
- ◆ 12 ページのセクション 1.9 「Endpoint Security Management」
- ◆ 13 ページのセクション 1.10 「Full Disk Encryption」
- ◆ 13 ページのセクション 1.11 「イメージング」
- ◆ 13 ページのセクション 1.12 「場所」
- ◆ 13 ページのセクション 1.13 「Macintosh サポート」
- ◆ 15 ページのセクション 1.14 「パーソナリティマイグレーション」
- ◆ 15 ページのセクション 1.15 「ポリシー管理」
- ◆ 15 ページのセクション 1.16 「登録」
- ◆ 15 ページのセクション 1.17 「リモート管理」
- ◆ 16 ページのセクション 1.18 「ユーザ管理」

1.1 システム要件

- ◆ 9 ページのセクション 1.1.1 「プライマリサーバと管理対象デバイスのサポート」
- ◆ 10 ページのセクション 1.1.2 「インベントリのみデバイスのサポート」
- ◆ 10 ページのセクション 1.1.3 「管理ブラウザサポート」
- ◆ 10 ページのセクション 1.1.4 「Apache Tomcat」
- ◆ 10 ページのセクション 1.1.5 「仮想マシン環境」

1.1.1 プライマリサーバと管理対象デバイスのサポート

次のプラットフォームがサポートされるようになりました。

- ◆ Red Hat Enterprise Linux 5.6、5.7、および 6.1

次のプラットフォームはもうサポートされていません。

- ◆ Red Hat Enterprise Linux 5.4 は、プライマリサーバとしてもうサポートされていません。

- ◆ Windows Server 2008 は、プライマリサーバとしてサポートされなくなりました。
- ◆ Windows Vista SP1 は、管理対象デバイスとしてはもうサポートされていませんが、インベントリのみデバイスとして引き続きサポートされます。

1.1.2 インベントリのみデバイスのサポート

次のプラットフォームのサポートが追加されています。

- ◆ Red Hat Enterprise Linux 5.6、5.7、6.0、および 6.1

1.1.3 管理ブラウザサポート

次のブラウザバージョンがサポートされるようになりました。

- ◆ Windows デバイスおよび Linux デバイス上の Firefox 6.0、7.0、8.0、9.0、および 10
- ◆ Internet Explorer 9.0

次のブラウザバージョンはサポートされなくなりました。

- ◆ Firefox 3.x は、ZENworks Reporting でのみサポートされています。
- ◆ Firefox 4.x は、サポートされなくなりました。

1.1.4 Apache Tomcat

Apache Tomcat 6.0.33 は、ZENworks 11 SP2 に添付されるようになりました。

1.1.5 仮想マシン環境

ZENworks 11 SP2 では、ZENworks 管理対象デバイスソフトウェアを次の仮想マシン環境にインストールできます。

- ◆ VMware VDI 4.6
- ◆ XenDesktop 5.0

1.2 zman サービス

zman をサービスとして実行できるようになりました。zman をサービスとして実行すると zman コマンドがサービスモードで実行され、コマンドの実行時間を短縮できます。

詳細については、「[zman サービス](#)」(『ZENworks 11 SP2 コマンドラインユーティリティリファレンス』)を参照してください。

1.3 クイックタスクのオプションとステータス

クイックタスクの通知を管理対象デバイスに送信するプライマリサーバと、クイックタスクの通知と有効期限のオプションを指定できます。さらに、クイックタスクの通知のステータスを表示することもできます。

1.4 既存のアップデートの適用

元のアップデートに失敗した場合に管理対象デバイスにアップデートパッチを適用するための、新しい zman コマンドが作成されました。このコマンドにより、パッチ適用プロセスが簡単になります。

1.5 コンテキストを意識したダイナミックグループ

コンテキストをダイナミックサーバ/ワークステーショングループに追加することができます。ダイナミックグループのメンバーシップは、定義されたコンテキストに基づいて計算されます。

1.6 アセット管理

ZENworks 11 SP2 リリースのアセット管理では、次の機能が追加および強化されています。

- 11 ページのセクション 1.6.1 「zman コマンドを使用した契約のインポート」
- 11 ページのセクション 1.6.2 「ハイパーリンクを使用した ZENworks アセット管理ドキュメントの作成」

1.6.1 zman コマンドを使用した契約のインポート

.csv ファイルまたは .txt ファイルから ZENworks に、asset-management-import-contract(zman amic) コマンドを使用して、契約をインポートできます。コマンドのパラメータとして指定できるのは、カンマ区切り値が記述されている .csv または .txt ファイルのパスのみです。インポートされた契約は、ZENworks コントロールセンターで表示できます。詳細については、「アセット管理コマンド」(『ZENworks 11 SP2 コマンドラインユーティリティリファレンス』)を参照してください。

1.6.2 ハイパーリンクを使用した ZENworks アセット管理ドキュメントの作成

[New Document (新規ドキュメント)] メニューに [Hyperlink (ハイパーリンク)] オプションが追加され、ZENworks アセット管理ドキュメントを作成できるようになりました。

1.7 アセットインベントリ

ZENworks 11 SP2 リリースのアセットインベントリでは、次の機能が追加および強化されています。

- 12 ページのセクション 1.7.1 「インベントリコレクションエディタ」
- 12 ページのセクション 1.7.2 「ローカル製品の作成 / 削除権」
- 12 ページのセクション 1.7.3 「管理者が定義したフィールドを使用したダイナミックデバイスグループの作成」

1.7.1 インベントリコレクションエディタ

コレクションエディタでは、インベントリデータを表示および管理できます。ワークステーションおよびハードウェアデバイスのシリアル番号およびアセットタグを編集したり、新しいハードウェアを追加したりできます。

ZENworks 管理者は、ZENworks コントロールセンターのログイン資格情報を使用して、コレクションエディタにアクセスできます。この機能は、Windows 管理対象デバイスでのみ使用可能です。詳細については、「[インベントリ](#)」(『*Novell ZENworks 11 SP2 Adaptive Agent ガイド*』)を参照してください。

1.7.2 ローカル製品の作成 / 削除権

管理ゾーンに新しくローカル製品の作成 / 削除権が追加されました。この権利を持つ管理者は、ローカル製品を作成、削除、編集、およびマージできます。詳細については、「[ローカルソフトウェア製品の作成](#)」(『*ZENworks 11 SP2 アセットインベントリリファレンス*』)を参照してください。

1.7.3 管理者が定義したフィールドを使用したダイナミックデバイスグループの作成

ZENworks 11 SP2 では、[アセットインベントリ] ページで管理者が定義したフィールドを使用してダイナミックデバイスグループを作成したり、[デバイス] ページおよび [インベントリ] ページでデバイスを検索したりできます。

1.8 バンドル管理

ZENworks 11 SP2 では、次の機能が強化されています。

- ◆ Macintosh バンドルのサポート
- ◆ レジストリ編集アクションを使用してレジストリエントリをファイルにエクスポートする機能
- ◆ `zman betf` コマンドでオプション `-c` を使用して、バンドルをそのコンテンツと一緒にエクスポートする機能：

```
zman betf (バンドルパス) (XML ファイルパス) -c
```

1.9 Endpoint Security Management

エージェントのセキュリティ設定の構成には、現在、セキュリティ設定ポリシーは使用されていません。エージェントのセキュリティ設定は、ZENworks エージェント設定 ([環境設定] タブ > [管理ゾーンの設定] > [デバイス管理] > [ZENworks エージェント]) の一部として設定されます。

ZENworks 11 SP2 より前のバージョンのエージェントは、引き続きセキュリティ設定ポリシーでサポートされます。

1.10 Full Disk Encryption

ZENworks 11 SP2 で新しく導入された ZENworks Full Disk Encryption は、デバイスの電源オフ時またはハイバネーションモード中に、セクタベースのディスク暗号化およびプレブート認証を使用して、デバイスのローカル固定ボリューム上のデータを保護します。フルディスク (全ボリューム) または選択したボリュームのみを暗号化できます。一時ファイル、スワップファイル、およびオペレーティングシステムを含めて選択したボリュームのすべてが暗号化されます。ボリュームのデータには、認証済みユーザがログインするまでアクセスできなくなり、CD/DVD やフロッピーディスク、USB ドライブなどのメディアからデバイスをブートしてもアクセスすることはできません。

ZENworks Full Disk Encryption の導入手順については、「[Full Disk Encryption](#)」 (『[ZENworks 11 SP2 管理クイックスタート](#)』) を参照してください。他の情報については、『[ZENworks 11 SP2 Full Disk Encryption ポリシーリファレンス](#)』を参照してください。

1.11 イメージング

ZENworks 11 SP2 リリースでは、次の機能が追加および強化されています。

- ◆ イメージング NTFS ドライブ向け高性能ドライバ
- ◆ フルディスク暗号化デバイス向けイメージングサポート

詳細については、『[ZENworks 11 SP2 Preboot Service およびイメージングリファレンス](#)』を参照してください。

1.12 場所

ZENworks 11 SP2 の新しい場所割り当て機能を使用して、場所のサブセットをデバイスフォルダまたはデバイスに割り当てることができます。

詳細については、『[ZENworks 11 SP2 システム管理リファレンス](#)』を参照してください。

1.13 Macintosh サポート

ZENworks 11 SP2 には、次に関して Macintosh のサポートが追加されています。

- ◆ 13 ページのセクション 1.13.1 「アセットインベントリ」
- ◆ 14 ページのセクション 1.13.2 「バンドル管理」
- ◆ 14 ページのセクション 1.13.3 「レポートイング」
- ◆ 14 ページのセクション 1.13.4 「リモート管理」
- ◆ 14 ページのセクション 1.13.5 「検出と展開」
- ◆ 14 ページのセクション 1.13.6 「管理クイックスタート」
- ◆ 14 ページのセクション 1.13.7 「Macintosh 用の zac コマンド」

1.13.1 アセットインベントリ

ZENworks 11 SP2 では、Macintosh デバイス上のインベントリデータの収集がサポートされています。詳細については、『[ZENworks 11 SP2 アセットインベントリリファレンス](#)』を参照してください。

1.13.2 バンドル管理

ZENworks 11 SP2 には、Macintosh バンドルのサポートが追加されています。詳細については、『[ZENworks 11 SP2 ソフトウェア配布リファレンス](#)』を参照してください。

1.13.3 レポーティング

ZENworks Reporting Server 11 SP2 では、Macintosh デバイスと Macintosh バンドルをサポートしています。デバイス関連 (オペレーティングシステムに関係なく) およびバンドル固有のすべてのレポートに、Macintosh デバイスと Macintosh バンドルが一覧表示されます。詳細については、『[ZENworks 11 SP2 システムレポーティングリファレンス](#)』を参照してください。

1.13.4 リモート管理

ZENworks 11 SP2 では、ZENworks コントロールセンターから Macintosh をリモート管理できます。詳細については、『[ZENworks 11 SP2 リモート管理リファレンス](#)』を参照してください。

次の Macintosh 関連機能が、ZENworks 11SP2 リリースのリモート管理に追加されました。

- ◆ Macintosh デバイスでのリモート管理の実行
- ◆ Macintosh デバイスでのリモートビューセッションの管理
- ◆ Macintosh デバイスでのリモート SSH セッションの管理

1.13.5 検出と展開

エージェントを手動で Macintosh デバイスに展開することを計画している場合は、「Manually Deploying the Agent on a Macintosh device」(『[ZENworks 11 SP2 検出、展開、リタイアリファレンス](#)』)を参照してください。

1.13.6 管理クイックスタート

Macintosh への手動インストール機能が、ZENworks 11 SP2 リリースの『管理クイックスタート』に導入されました。詳細については、『[ZENworks 11 SP2 管理クイックスタート](#)』を参照してください。

1.13.7 Macintosh 用の zac コマンド

zac ユーティリティを使用して、Macintosh 管理対象デバイスでコマンドライン管理機能を実行できます。

詳細については、『[ZENworks 11 SP2 コマンドラインユーティリティリファレンス](#)』を参照してください。

1.14 パーソナリティマイグレーション

ZENworks 11 SP2 Personality Migration では、次の Microsoft Office 2010 アプリケーションがサポートされています。

- ◆ Microsoft Outlook
- ◆ Microsoft PowerPoint
- ◆ Microsoft Excel
- ◆ Microsoft Word

1.15 ポリシー管理

ZENworks 11 SP2 リリースのポリシー管理では、次の機能が追加および強化されています。

- ◆ `zman petf` コマンドで `-c` オプションを使用して、ポリシーをそのコンテンツと一緒にエクスポートする機能：

`zman petf (ポリシーパス)(XML ファイルパス) -c`

- ◆ ZENworks のプリンタポリシーを使用して、標準の TCP/IP プリンタをインストールする機能
- ◆ CUPS プリンタを追加するプリンタポリシーを作成する機能

コマンドの使用方法については、『[ZENworks 11 SP2 コマンドラインユーティリティリファレンス](#)』を参照してください。プリンタポリシーの詳細については、「[プリンタポリシー](#)」(『[ZENworks 11 SP2 Configuration Policies Reference](#)』)を参照してください。

1.16 登録

ZENworks 11 SP2 リリースでは、次の機能が追加および強化されています。

- ◆ 登録ルールにフィルタセットを追加し、OR 条件で複数のルールを結合する機能。
- ◆ `zman` を使用して登録ルールを XML ファイルにエクスポートする機能およびエクスポートされた XML ファイルをインポートする機能。
- ◆ 登録ルールで MAC アドレスをフィルタとして使用する機能。
- ◆ デバイスに付ける名前に MAC アドレスを使用する機能。命名テンプレートオプションに MAC アドレスが追加されています。
- ◆ `zman registration-import-devices` コマンドを使用して CSV ファイルからデバイスを登録する機能。

1.17 リモート管理

ZENworks 11 SP2 リリースでは、次の機能が追加および強化されています。

- ◆ リモート操作ダイアログボックスにデフォルトでデバイスの IP アドレスを表示できます。
- ◆ リモート操作中にリモートオペレータが指定した値とオプションはキャッシュされます。その後のリモート操作では、デバイスまたはリモートオペレータに基づいて、キャッシュされた値が自動的に選択されます。

1.18 ユーザ管理

ZENworks 11 SP2 では、XenDesktop および VDI 環境でシームレスに ZENworks にログインできます。

ZENworks 11 SP2 へのプライマリ サーバのアップグレード

2

次のいずれかのバージョンがインストールされているプライマリサーバは、ZENworks 11 SP2 インストールメディアを使用して、直接 ZENworks 11 SP2 にアップグレードできます。

- ◆ ZENworks 10 Configuration Management SP3 (10.3)
- ◆ ZENworks 10 Configuration Management SP3 (10.3.1)
- ◆ ZENworks 10 Configuration Management SP3 (10.3.2)
- ◆ ZENworks 10 Configuration Management SP3 (10.3.3)
- ◆ ZENworks 10 Configuration Management SP3 (10.3.4)
- ◆ ZENworks 11
- ◆ ZENworks 11 SP1
- ◆ ZENworks 11 SP1a

次の各セクションでは、ZENworks 11 SP2 へのアップグレードについて説明します。

- ◆ [17 ページのセクション 2.1 「アップグレードで行われる処理について」](#)
- ◆ [18 ページのセクション 2.2 「データベースに関する検討事項」](#)
- ◆ [19 ページのセクション 2.3 「アップグレード順序について」](#)
- ◆ [21 ページのセクション 2.4 「前提条件」](#)
- ◆ [23 ページのセクション 2.5 「リモート OEM Sybase SQL Anywhere データベースのアップグレード」](#)
- ◆ [24 ページのセクション 2.6 「プライマリサーバのアップグレード」](#)
- ◆ [41 ページのセクション 2.7 「ZENworks Reporting Server のアップグレード」](#)
- ◆ [43 ページのセクション 2.8 「既知の問題」](#)
- ◆ [43 ページのセクション 2.9 「トラブルシューティング」](#)

2.1 アップグレードで行われる処理について

- ◆ Configuration Management、Asset Management、Asset Inventory、および Patch Management を含む、プライマリサーバ上の ZENworks 10 または 11 Configuration Management コンポーネントをすべてアップグレードします。
- ◆ ZENworks 10.3.x サーバの場合、ZENworks 11 Endpoint Security Management および ZENworks 11 Full Disk Encryption をインストールします。
- ◆ ZENworks 11 サーバの場合、ZENworks 11 Endpoint Security Management をアップグレードし、ZENworks 11 Full Disk Encryption をインストールします。
- ◆ ZENworks データベースをアップグレードします。これは、最初のサーバのアップグレード時に行われます。

- ◆ 最初のサーバを ZENworks 11 SP2 にアップグレードすると、システム更新を使用して、ZENworks のサテライトのサポートされているバージョンおよび管理対象デバイスを ZENworks 11 SP2 にアップグレードできるようになります。

サテライトと管理対象デバイスを ZENworks 11 SP2 にアップグレードする方法の詳細については、45 ページの第 3 章「ZENworks 11 SP2 へのサテライトと管理対象デバイスのアップグレード」を参照してください。

- ◆ 管理ゾーンレベルで設定された最近接サーバルールのみを移行します。これらのルールは、ルールロジックに従って、場所またはネットワーク環境として ZENworks 11 SP2 に移行されます。

デバイスおよびデバイスフォルダレベルで設定された最近接サーバルールは移行されません。

注：すべてのプライマリサーバがアップグレードされるまで、ネットワーク環境名を変更しないでください。すべてのプライマリサーバのアップグレードが終了する前に、最近接サーバルールの移行によって作成されたネットワーク環境の名前を変更すると、アップグレードプロセスによりこれらのネットワーク環境が再び移行され、ネットワーク環境が追加されることとなります。詳細については、[Novell Support Knowledgebase \(http://support.novell.com/search/kb_index.jsp\)](http://support.novell.com/search/kb_index.jsp) で TID 7009843 を参照してください。

- ◆ バンドルおよびポリシーの作成 / 削除権限と変更権限を、それぞれ発行権限と作成者権限として変換します。
- ◆ 既存のファイルバンドルとディレクティブバンドルを Windows バンドルに変換します。

Windows バンドルは、ファイルバンドルとディレクティブバンドルによってサポートされている (アクションカテゴリを除く) すべてのカテゴリをサポートします。

たとえば、パーソナリティの保存カテゴリを含むディレクティブバンドルは、パーソナリティの保存カテゴリを持つ Windows バンドルとして移行されますが、アクションカテゴリを含むディレクティブバンドルは、空のカテゴリを持つ Windows バンドルとして移行されます。

2.2 データベースに関する検討事項

ZENworks 10.x または 11.x から ZENworks 11 SP2 にアップグレードする場合、次のガイドラインについて検討してください。

- ◆ 外部データベースを使用している場合、そのデータベースをサポートされているデータベースバージョンまでアップグレードまたは移行する必要があります。

注：MS SQL 2008 R2 を互換モードで実行しているデバイスでは、ZENworks 11 SP2 にアップグレードする前に、互換モードを手動で無効にする必要があります。

サポートされているデータベースの詳細については、「[データベースの要件](#)」(『ZENworks 11 SP2 インストールガイド (<http://www.novell.com/documentation/zenworks11/>)』) を参照してください。

- ◆ 新しいデータベースの詳細は、ZENworks 11 SP2 のアップグレード中に入力を求められるので、記録しておきます。

- ◆ データベースが動作しているマシン上でデータベースをアップグレードするか、またはサードパーティ製アップグレードツールを使用してデータベースを移行するか、どちらかを実行できます。

組み込み Sybase データベースを使用している場合、ZENworks アップグレードインストーラがデータベースをアップグレードし、再構築します。

注：組み込み Sybase データベースをホストしているサーバでは、データベースファイルのサイズに等しい量の空き領域を確保する必要があります。

- ◆ OEM Sybase SQL Anywhere 12 は、ZENworks 11 SP2 でサポートされています。そのため、リモート OEM Sybase SQL Anywhere データベースを使用している場合、リモートデータベースサーバでそのデータベースを OEM Sybase SQL Anywhere 12 にアップグレードしていることを確認してください。

リモート OEM Sybase SQL Anywhere データベースをアップグレードする方法については、[23 ページのセクション 2.5 「リモート OEM Sybase SQL Anywhere データベースのアップグレード」](#)を参照してください。

- ◆ データベースは、同じデータベースの新しいバージョンにのみアップグレードできません。アップグレードインストーラを使用して、あるデータベースを別のデータベースに移行することはできません。
- ◆ どの外部データベースでも、データベースをアップグレードする前に、ZENworks サービスを停止してください。

2.3 アップグレード順序について

ZENworks 11 SP2 をアップグレードする場合、アップグレードは次の順序で実行する必要があります。

1. オペレーティングシステムのアップグレード：デバイスにインストールされているオペレーティングシステムが ZENworks でサポートされていない場合、オペレーティングシステムをサポートされている最新バージョンにアップグレードします。

サポートされているオペレーティングシステムの詳細については、「[オペレーティングシステム](#)」（『[ZENworks 11 SP2 インストールガイド](#)』）を参照してください。

重要：アップグレードを実行する前に、確実にデータおよび証明書情報をバックアップしてください。

2. データベースのアップグレード：デバイスにインストールされているデータベースのタイプに応じて、次のステップを実行します。
 - ◆ (外部データベースまたは OEM Sybase) データベースをサポートされている最新バージョンにアップグレードします。たとえば、デバイスに Oracle 10g データベースがインストールされている場合、このデータベースを Oracle 11g リリース 2 にアップグレードする必要があります。外部データベースをアップグレードする方法については、サードパーティのユーザマニュアルを参照してください。OEM Sybase データベースをアップグレードする方法については、[23 ページのセクション 2.5 「リモート OEM Sybase SQL Anywhere データベースのアップグレード」](#)を参照してください。

サポートされているデータベースの詳細については、「[データベースの要件](#)」(『ZENworks 11 インストールガイド (<http://www.novell.com/documentation/zenworks11/>)』)を参照してください。

- ◆ (組み込み Sybase データベース)ZENworks Upgrade Installer がアップグレードを実行し、サポートされている最新バージョンのデータベースを再構築します。

注: データベースをアップグレードする前に、そのデータベースへのすべての接続を停止する必要があります。

OEM Sybase と ZENworks が同じマシンにインストールされている場合、OEM Sybase をアップグレードする前に、すべての ZENworks サービスを停止する必要があります。データベースのアップグレードが完了したら、ZENworks をアップグレードする前に、ZENworks サービスを再起動します。

3. ZENworks のアップグレード: ZENworks を最新バージョンにアップグレードします。

- ◆ ZENworks 11 SP2 アップグレードプログラムでは、そのプログラムを実行するサーバのみをアップグレードできます。
- ◆ 組み込み Sybase データベースを使用している場合、このデータベースをホストしているデバイスを最初にアップグレードする必要があります。使用していない場合は、管理ゾーンのプライマリサーバを任意の順序で選択してアップグレードできます。

注: 最初のプライマリサーバを Zenworks 11 SP2 にアップグレードしたら、他のすべてのサーバを ZENworks 11 SP2 にアップグレードする必要があります。

- ◆ 管理ゾーンで初めてアップグレードを実行する場合、プライマリサーバは1つずつしかアップグレードできません。最初のプライマリサーバをアップグレードしたら、他のプライマリサーバは同時に、または任意の順序で、アップグレードできます。

注: スキーマおよびライセンスの情報は、最初のプライマリサーバのアップグレード中にのみ更新され、それ以降のサーバのアップグレード中には更新されません。

最初のプライマリサーバをアップグレードする間は、他のすべてのサーバで ZENworks サービスを停止する必要があります。他のプライマリサーバをアップグレードする際、まだアップグレードされていないサーバのサービスは停止する必要があります。サービスを停止しない場合、データベースが影響を受ける可能性があります。

- ◆ エージェントとサテライトをアップグレードする前に、ゾーン内のすべてのプライマリサーバをアップグレードする必要があります。

2.4 前提条件

- [21 ページのセクション 2.4.1「管理ゾーンで最初のアップグレードを実行するための前提条件」](#)

2.4.1 管理ゾーンで最初のアップグレードを実行するための前提条件

管理ゾーンで初めてプライマリサーバを ZENworks 11 SP2 にアップグレードする場合、アップグレードプログラムを実行する前に、次の作業を完了する必要があります。

- ZENworks Configuration Management 10.3.x プライマリサーバを ZENworks 11 SP2 にアップグレードしたい場合、このサーバが ZENworks 11 SP2 のシステム要件をすべて満たしているか確認します。

詳細については、「[プライマリサーバ要件](#)」(『[ZENworks 11 SP2 インストールガイド](#)』)を参照してください。

- ZENworks データベースをバックアップします。
- アップグレード中にデータベースがアクセスされないように、アップグレードされていないプライマリサーバ上の ZENworks サービスをすべて停止します。
 - Windows プライマリサーバ上の ZENworks サービスの停止については、「[Stopping the ZENworks Services](#)」(「[ZENworks Services on a Windows Server](#)」セクション(『[ZENworks 11 SP2 システム管理リファレンス](#)』))を参照してください。
 - Linux プライマリサーバ上の ZENworks サービスの停止については、「[Stopping the ZENworks Services](#)」(「[ZENworks Services on a Linux Server](#)」セクション(『[ZENworks 11 SP2 システム管理リファレンス](#)』))を参照してください。

最初のサーバをアップグレードすると、ZENworks Configuration Management 10.2.2/10.3.x のサテライトと管理対象デバイスの ZENworks 11 SP2 へのアップグレードに、システム更新を使用できるようになります。これは、システム更新機能を使用して行うことができます。

- データベースをホストしているサーバが、データベースがアクティブな状態で実行されていることを確認します。
- アップグレードを成功させるには、サーバとデータベースの時刻が同期していることを確認します。

注：

- 時刻のずれが 2 分未満であれば、エラーは発生しません。
 - 時刻のずれが 24 時間未満の場合、アップグレード中に警告メッセージが表示されます。
 - 時刻のずれが 24 時間を超えている場合、エラーメッセージが表示されます。
-
- Windows プライマリサーバに、Windows Installer 4.5 以上がインストールされ、実行中であることを確認します。

- ◆ (条件付き)ゾーンに ZENworks Reporting Server がインストールされている場合、次のステップを実行して、ZENworks Configuration Management 10.3.0/10.3.1 を ZENworks 11SP2 にアップグレードします。
 1. ZCM 10.3.0/10.3.1 - ZRS レポートバックアップパッチをダウンロードし、インストールします。パッチの詳細については、[Novell Support Knowledgebase \(http://support.novell.com/search/kb_index.jsp\)](http://support.novell.com/search/kb_index.jsp) の TID 7007852 を参照してください。
 2. `zman report-save` コマンドの実行により、レポートとレポートのデータをバックアップします。

`zman` コマンドの詳細については、「[「レポートコマンド」](#)」(『ZENworks 11 SP2 コマンドラインユーティリティリファレンス』)を参照してください。
- ◆ ZENworksアップグレードソフトウェアをISOイメージのダウンロードとして入手した場合、次のいずれかを実行してアップグレード DVD を作成します。
 - ◆ [22 ページの「Windows を使用して ISO イメージから ZENworks インストール DVD を作成する」](#)
 - ◆ [22 ページの「Linux を使用して ISO イメージから ZENworks インストール DVD を作成する」](#)

注: ISO イメージを抽出して、ZENworks 11 SP2 へのアップグレードに使用しないでください。

Windows を使用して ISO イメージから ZENworks インストール DVD を作成する

- 1 ZENworks 11 SP2 アップグレード ISO イメージを [Novell ダウンロード Web サイト \(http://download.novell.com/\)](http://download.novell.com/) から Windows デバイスの一時保管場所にダウンロードします。
- 2 ISO イメージを DVD に記録します。

Linux を使用して ISO イメージから ZENworks インストール DVD を作成する

- 1 ZENworks 11 SP2 アップグレード ISO イメージを [Novell ダウンロード Web サイト \(http://www.novell.com/\)](http://www.novell.com/) から Linux デバイスの一時保管場所にダウンロードします。
- 2 次のコマンドを使用して ISO イメージをマウントします。

```
mount -o loop /tempfolderpath/isoimagename.iso mountpoint
```

tempfolderpath を一時フォルダへのパスと置き換えて、*isoimagename* を ZENworks ISO ファイル名と置き換え、*mountpoint* をイメージをマウントするファイルシステムの場所へのパスと置き換えます。*mountpoint* によって指定されたパスはすでに存在している必要があります。

たとえば、次のようにします。

```
mount -o loop /zcm11/ZCM11upgr.iso /zcm11/upgrade
```

- 3 ISO イメージを DVD に記録します。

2.5 リモート OEM Sybase SQL Anywhere データベースのアップグレード

OEM Sybase SQL Anywhere 12 は、ZENworks 11 SP2 でサポートされています。リモート OEM Sybase SQL Anywhere データベースを使用している場合、リモートデータベースサーバでそのデータベースを OEM Sybase SQL Anywhere 12 にアップグレードする必要があります。

次のステップを実行して、Sybase エンジンを実アップグレードした後、リモート OEM Sybase SQL Anywhere データベースを実アップグレードし、再構築します。

重要: リモート OEM Sybase SQL Anywhere データベースを実アップグレードする前に、データベースファイルをデフォルトの場所にバックアップする必要があります。詳細については、[TID 7009199 \(http://www.novell.com/support/\)](http://www.novell.com/support/) を参照してください。

- 1 OEM Sybase データベースがリモートマシンにインストールされている場合、すべてのプライマリサーバで ZENworks サービスを停止する必要があります。しかし、OEM Sybase データベースが ZENworks サーバにインストールされている場合は、それ以外のサーバでのみサービスを停止する必要があります。ZENworks サーバのサービスの停止と開始は、アップグレードインストーラが実行します。
- 2 リモート OEM Sybase SQL Anywhere データベースがインストールされているデバイスで、Novell ZENworks 11 SP2 インストール DVD を挿入し、次のいずれかのコマンドを実行します。
 - Windows の場合は、外部データベースサーバで次のコマンドを実行します。
DVD_drive:\setup.exe --upgrade-oemdb
または
DVD_drive:\setup.exe -O
「O」は大文字で入力する必要があります。
 - Linux の場合は、外部データベースサーバで次のコマンドを実行します。
sh /media/cdrom/setup.sh --upgrade-oemdb
または
sh /media/cdrom/setup.sh -O
「O」は大文字で入力する必要があります。
- 3 [Language Selection(言語の選択)] ページで、インストーラを実行する言語を選択し、[OK] をクリックします。
- 4 [イントロダクション] ページで、[次へ] をクリックし、続行します。
- 5 [使用許諾書] ページで、[次へ] をクリックします。
- 6 [外部データベースの設定] ページで、次のデータベース設定詳細を指定します。
 - **データベース名:** 既存のデータベース名を指定します。
 - **ユーザ名:** データベースを変更できるユーザを指定します。ユーザはデータベースを変更するための読み込み / 書き込み権限を持っている必要があります。
 - **パスワード:** データベースの読み込み / 書き込み権限を持つユーザのパスワードを指定します。

- ◆ データベースサーバ名 : OEM Sybase SQL Anywhere データベースサーバの名前を指定します。
- 7 [次へ] をクリックします。
 - 8 次の画面で、[OK] をクリックし、アップグレードを続行します。

ステップ 6 で指定したデータベース設定詳細が正しい場合、OEM Sybase SQL Anywhere データベースがアップグレードされ、[インストールが完了しました] ページが表示されます。

データベース設定詳細が正しくない場合、エラーメッセージが表示されます。アップグレードを続行するには、[外部データベースの設定] ページで正しいデータベース設定詳細を入力し直す必要があります。
 - 9 [次へ] をクリックします
 - 10 [アップグレードは正常に終了しました] ページで、[完了] をクリックし、アップグレードを完了します。

注: アップグレードが完了したら、ログファイル (ZENworks_OEM_Database_Upgrade_<タイムスタンプ>.log.xml) を調べてエラーを確認します。このログファイルは、Windows の場合は <Install_location>/Novell/ZENworks/logs、Linux の場合は /var/opt/novell/log/zenworks にあります。エラーが発生した場合は、[Novell Support \(http://www.novell.com/support\)](http://www.novell.com/support) にサポートを依頼してください。

2.6 プライマリサーバのアップグレード

アップグレードには、グラフィカルユーザインタフェース (GUI) プログラムまたはコマンドライン (Linux のみ) を使用できます。

- ◆ [24 ページのセクション 2.6.1「GUI を使用した Linux および Windows サーバのアップグレード」](#)
- ◆ [38 ページのセクション 2.6.2「コマンドラインを使用した Linux サーバのアップグレード」](#)

重要: プライマリサーバの ZENworks 11 SP2 へのアップグレードには ZENworks システム更新を使用しないでください。

Windows デバイスでは、ZENworks サーバをアップグレードする前に、Windows Update を実行して使用可能な更新がデバイスにすべてインストールされていることを保証する必要があります。Windows Update を一度実行した後は無効にして、デバイスの ZENworks サーバのアップグレード中にそれ以上更新が行われないことを保証します。

2.6.1 GUI を使用した Linux および Windows サーバのアップグレード

ZENworks 11 SP2 にアップグレードするプライマリサーバで、次の手順を実行します。

- 1 [21 ページのセクション 2.4「前提条件」](#) で説明されているアップグレードの前提条件を満たしていることを確認します。

- 2 次の手順で、ZENworks 11 SP2 アップグレードプログラムを起動します。
- ◆ **Linux:** Linux 端末で、ZENworks 11 SP2 インストールメディアのルートまでブラウザし、`setup.sh` コマンドを入力します。
 - ◆ **Windows:** 次のいずれかの操作を行います。
 - ◆ ZENworks 11 SP2 インストールメディアのルートまでブラウザし、`setup.exe` をダブルクリックします。
 - ◆ DOS ウィンドウを開き、ZENworks 11 SP2 インストールメディアのルートまでブラウザし、`setup.exe` コマンドを入力します。
- 3 アップグレード中に、アップグレードデータの詳細を理解する必要がある場合は、[26 ページの表 2-1 「アップグレード情報」](#)に記載されている情報を参照してください。

GUI アップグレードを使用している場合は、[ヘルプ] ボタンをクリックして同様の情報を参照することもできます。

- 4 Windows デバイスで次のいずれかを実行します：
- ◆ 自動的に再起動するように選択した場合は (アップグレード時に [はい、システムを再起動します] オプションを選択した場合。[31 ページの「サーバの再起動 \(Windows の場合のみ\)」](#)参照)、起動プロセスが完了してサービスが開始したら、[ステップ 6](#)に進みます。
 - ◆ 手動で再起動するように選択した場合は (アップグレード時に [いいえ、システムを後で手動で再起動します] オプションを選択した場合。[31 ページの「サーバの再起動 \(Windows の場合のみ\)」](#)参照)、アップグレードが完了してサービスを開始するまで待機し、[ステップ 5](#)で確認する必要があります。
- 5 アップグレードが完了して ZENworks サービスが再開されたら、次のいずれかを行って、ZENworks 11 SP2 が実行されていることを確認します。

- ◆ **GUI を使用した Windows サービスのチェック：**

サーバで、[スタート] をクリックし、[管理ツール]、[サービス] の順に選択して [Novell ZENworks Loader] および [Novell ZENworks サーバ] サービスの状態を確認します。

サービスが実行中でない場合は、サービスを開始します。[Novell ZENworks Server] サービスを右クリックして [開始] を選択し、[Novell ZENworks Loader] サービスを右クリックして [開始] をクリックします。

または、[Novell ZENworks サーバ] の [再起動] オプションを使用して、関連するサービスをすべて停止します。これによって、Novell ZENworks ロータを含む関連する各サービスはいったん停止してから、正しい順番で起動されます。

- ◆ **ZENworks コントロールセンターの実行：**

ネットワーク内の任意のデバイスの Web ブラウザで、次の URL を使用して ZENworks コントロールセンターを開きます。

```
https://DNS_name_or_IP_address_of_Primary_Server:port_number/zenworks
```

- ◆ **特定のサービスコマンドを使用した Linux サービスのチェック：**

サーバで次のコマンドを実行します。

```
/etc/init.d/novell-zenserver status
```

```
/etc/init.d/novell-zenloader status
```

サービスが実行されていない場合は、次のコマンドを実行して ZENworks サービスを開始します。

```
/etc/init.d/novell-zenserver start
```

```
/etc/init.d/novell-zenloader start
```

◆ **設定コマンドを使用した Linux サービスのチェック：**

サーバで次のコマンドを実行します。

```
/opt/novell/zenworks/bin/novell-zenworks-configure -c SystemStatus
```

これによりすべての ZENworks サービスおよびその状態が一覧表示されます。

サービスを実行するには、次のコマンドを実行してください。

```
/opt/novell/zenworks/bin/novell-zenworks-configure -c Start
```

6 他のプライマリサーバをアップグレードするには、[ステップ 2](#) から繰り返します。

重要：管理ゾーン内にあるプライマリサーバすべてのアップグレードが完了するまで、これらのステップを繰り返します。システム更新によって ZENworks Adaptive Agents がアップグレードされたその他の管理対象デバイスは、まだアップグレードされていないプライマリサーバには接続できないようにしてください。

ZENworks Configuration Management 10.3.x および ZENworks 11 から ZENworks 11 SP2 にアップグレードする必要があるアップグレード情報を、インストールフローの順序に従って、次の表に示します。

表 2-1 アップグレード情報

アップグレード情報	説明
使用許諾契約	使用許諾契約を受諾しない場合は、アップグレードプログラムが終了します。
ZENworks 前提条件	必要な前提条件を満たしていない場合は、アップグレードを続行できません。満たされていない要件は、GUI に表示されるか、またはコマンドラインに一覧表示されます。詳細については、「 システム要件 」(『 ZENworks 11 SP2 インストールガイド 』)を参照してください。 .NET 前提条件が満たされていない場合は、説明内の [ZENworks] リンクをクリックして ZENworks にバンドルされているランタイムバージョンをインストールすることができます。.NET 3.5 SP1 フレームワークとそのすべての最新アップデートをインストールしたか確認します。.NET のインストール後、ZENworks アップグレードが続行します。
Upgrade Type(アップグレードタイプ)	管理ゾーンで最初にアップグレードするプライマリサーバの場合は [はい]、それ以外の場合は [いいえ] を選択します。 [はい] を選択すると、データベース詳細の入力を求められます。 または [いいえ] を選択した場合は、 35 ページの表 2-3 「アップグレード情報 - 他のプライマリサーバのアップグレード」 で説明する手順を実行します。
Database Details(データベース詳細)	データベース詳細を入力し、<Enter> を押します。

アップグレード情報

説明

ゾーン管理者情報

管理ゾーン管理者のログイン名とパスワードを指定します。

前のステップで [いいえ] を選択した場合、デバイスは指定されたサーバとゾーン資格情報でデータベースへの接続を試みます。

ZENworks ライセンス登録 Novell ZENworks 11 SP2 製品を、アップグレードまたはインストールした後に、有効/無効にします。

注：ZENworks 11 SP2 ライセンスキーは大文字と小文字が区別されます。アップグレードウィザードでライセンスキーを指定する際、個々の文字の大文字小文字の区別を変更しないでください。

このページは、ゾーンで初めて ZENworks 11 SP2 アップグレードプログラムを実行した場合または ZENworks 10.3.x のゾーンをアップグレードする場合にのみ表示されます。

注：ZENworks 10 Configuration Management SP3 を ZENworks 11 SP2 にアップグレードする場合は、一覧表示された製品のライセンスがすべて表示されます。ただし、ZENworks 11 を ZENworks 11 SP2 にアップグレードする場合は、Full Disk Encryption のライセンス詳細のみが表示されます。

ZENworks 10 Configuration Management SP3 からアップグレードされた ZENworks 11 SP2 製品の有効化

ZENworks 10 Configuration Management SP3 からアップグレードした ZENworks 11 SP2 製品を、ZENworks 10 Configuration Management SP3 のライセンス状態に基づいて、有効にすることができます。

- ◆ ZENworks 11 SP2 Configuration Management、ZENworks 11 SP2 Asset Management、または ZENworks 11 SP2 Asset Inventory (UNIX/Linux 用) は、アップグレード前のライセンス状態によって、「評価」または「アクティブ」のどちらかとして有効化できます。

- ◆ **ZENworks 10.3 製品のライセンス状態が「評価」の場合：**製品の ZENworks 11 SP2 ライセンスの状態を「評価」または「アクティブ」のどちらかとして有効にできます。製品の「評価」状態を有効にするには、**[評価]** チェックボックスを選択します。製品の「アクティブ」状態を有効にするには、ZENworks 11 SP2 アップグレードの購入時に取得したライセンスキーを指定します。ライセンスキーを指定すると、**[評価]** チェックボックスが自動的にオフになります。

- ◆ **ZENworks 10.3 製品のライセンス状態が「アクティブ」の場合：**製品の ZENworks 11 SP2 ライセンスの状態を「アクティブ」としてのみ有効にできます。ZENworks 11 SP2 アップグレードの購入時に入手したライセンスキーを指定します。ライセンスキーを指定すると、**[評価]** チェックボックスが自動的にオフになります。

注：**[評価]** チェックボックスを選択して、ZENworks 11 SP2 ライセンスキーを指定しない場合は、ZENworks 11 SP2 アップグレードを続行できません。

- ◆ ZENworks 10 Patch Management SP3 のライセンス状態は、自動的に ZENworks 11 SP2 に移行されます。ZENworks 11 SP2 アップグレードを使用してライセンス状態を変更することはできません。
 - ◆ **ZENworks 10 Patch Management SP3 のライセンス状態は、「評価」または「アクティブ」です。**ZENworks 11 SP2 Patch Management のライセンス状態は、自動的に「評価」または「アクティブ」として保持されます。ZENworks 10 Patch Management SP3 のライセンス状態が「アクティブ」の場合、他の ZENworks 11 SP2 製品の「アクティブ」状態や「評価」状態を有効化しないように選択できます。ZENworks 11 SP2 Patch Management は、ZENworks Configuration Management がアクティブ化されていない場合でも、アクティブ化されます。
-

- ◆ **ZENworks 10 Patch Management SP3 のライセンス状態は、「非アクティブ化」です。**ZENworks 11 SP2 Patch Management のライセンス状態が「非アクティブ化」であり、製品が有効にならない場合は、次の手順で ZENworks 11 SP2 Patch Management を有効にしてください。
 1. 次の ZENworks 11 SP2 製品のいずれかの評価バージョンまたはアクティブバージョンを有効にします。
 - ◆ ZENworks 11SP2 Configuration Management
 - ◆ ZENworks 11SP2 Asset Management
 - ◆ ZENworks 11SP2 Endpoint Security Management
 2. 後で、ZENworks コントロールセンターを介して、ZENworks 11 SP2 Patch Management を「評価」状態または「アクティブ」状態のいずれかに有効化します。

製品をアクティブ化する方法の詳細については、「**ZENworks 11 製品ライセンス**」(『**ZENworks 11 SP2 システム管理リファレンス**』)を参照してください。

ZENworks 11 SP2 Endpoint Security Management の有効化

次のいずれかの操作を行います。

- ◆ 「評価」状態を有効にするには、その [評価] チェックボックスを選択します。

ZENworks 11 SP2 Endpoint Security Management が、60 日間のトライアルライセンスでインストールされます。
- ◆ 「アクティブ」状態を有効にするには、ZENworks 11 SP2 アップグレードの購入時に取得したライセンスキーを指定します。

ライセンスキーを指定すると、[評価] チェックボックスが自動的にオフになります。

ZENworks 11 SP2 Full Disk Encryption の有効化

次のいずれかの操作を行います。

- ◆ 「評価」状態を有効にするには、その [評価] チェックボックスを選択します。

ZENworks 11 Full Disk Encryption が、60 日間のトライアルライセンスでインストールされます。
- ◆ 「アクティブ」状態を有効にするには、ZENworks 11 SP2 アップグレードの購入時に取得したライセンスキーを指定します。

ライセンスキーを指定すると、[評価] チェックボックスが自動的にオフになります。

ZENworks 診断センター

ZENworks 診断センターを使用して、データベースを検証します。詳細については、[37 ページの「ZENworks 診断センターの実行によるデータベースの検証」](#)を参照してください。

注：データベースの検証は、最初のプライマリサーバを ZENworks 11 SP2 にアップグレードする前に実行する必要があります。それ以降のサーバのアップグレードでは、データベースを検証する必要はありません。

データベースを検証した後、**[はい、ZDC を使用してデータベーススキーマを検証しました]**を選択します。このオプションは、ZENworks 診断センターを使用して ZENworks データベーススキーマが正しいことを検証したことを確認します。

アップグレード情報**説明**

アップグレード前の概要

概要には次のフィールドが表示されます。

ZENworks ホームディレクトリ : アップグレードする ZENworks ソフトウェアがインストールされているプライマリサーバ上の場所が表示されます。

ゾーン名 : このサーバが属する管理ゾーンの名前が表示されます。

データベースのアップグレード : ZENworks データベースをアップグレードするかどうかを指定します。ステータスがプログラムによって自動的に確認され、アップグレードが必要かどうかチェックされます。

情報を変更するには、**[戻]** をクリックします。

アップグレードプロセス

ハードウェアの能力によっては、アップグレードプロセスには数十分かかります。

組み込み Sybase を使用している場合、データベース内のデータ量によっては、アップグレードにかかる時間が長くなる可能性があります。

アップグレード中に、**[キャンセル]** をクリックしてアップグレードを停止できます。この場合、その時点までにアップグレードされた変更はファイル内にそのまま残ります。キャンセル後の操作の詳細については、**Novell サポート** (<http://www.novell.com/support/>) にお問い合わせください。

アップグレードエラー

アップグレード中にエラーが発生した場合は、このページが表示されます。詳細については、次の場所にあるログファイルを参照してください。

Windows の場合

- ◆ %ZENWORKS_HOME%\logs
 - ◆ %ZENWORKS_HOME%\logs\ZENworks_Upgrade_<タイムスタンプ>.log.xml
 - ◆ %ZENWORKS_HOME%\logs\loader-messages.log
 - ◆ %ZENWORKS_HOME%\logs\system-update-import.log
 - ◆ %ZENWORKS_HOME%\logs\system-update\<更新 GUID>
 - ◆ %ZENWORKS_HOME%\logs\pre-global-actions.log

Linux の場合

- ◆ /var/opt/novell/log/zenworks
 - ◆ /var/opt/novell/log/zenworks/ZENworks_Upgrade_<タイムスタンプ>.log.xml
 - ◆ /var/opt/novell/log/zenworks/system-update/<更新 GUID>
 - ◆ /var/opt/novell/log/zenworks/loader-messages.log
 - ◆ /var/opt/novell/log/zenworks/system-update-import.log
 - ◆ /var/opt/novell/log/zenworks/pre-global-actions.log

エラーを解決して、アップグレードを再開する必要があります。

アップグレード後アクション

アップグレードプログラムを終了する前に、ZENworks システムステータスユーティリティを実行して、ZENworks サービスのハートビートチェックを起動するように選択できます。結果はインストールログに転記されます。

アップグレード情報	説明
サーバの再起動 (Windows の場合のみ)	Windows プライマリサーバでアップグレードが成功したら、すぐに再起動するか、後で再起動するか選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ はい、システムを再起動します：このオプションを選択すると、サーバが再起動されアップグレード処理が完了します。 ◆ いいえ、システムを後で手動で再起動します：このオプションを選択すると、サーバの次回再起動時にアップグレード処理が完了します。 <p>重要：アップグレード処理を完了するには、結局はサーバを再起動する必要があります。</p>

アップグレードの完了	次のアクションを含め、前に選択したアクションが実行されます。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ ZENworks データベースをアップグレードする(最初のプライマリサーバのアップグレード時に実行) ◆ プライマリサーバにインストールされている ZENworks コンポーネントすべてのアップグレード ◆ ゾーンへのシステム更新のインポート(ゾーン内の管理対象デバイスのアップグレードが可能になる)
------------	---

ZENworks 11 SP1 から ZENworks 11 SP2 にアップグレードする必要があるアップグレード情報を、インストールフローの順序に従って、次の表に示します。

表 2-2 アップグレード情報

アップグレード情報	説明
使用許諾契約	使用許諾契約を受諾しない場合は、アップグレードプログラムが終了します。
ZENworks 前提条件	必要な前提条件を満たしていない場合は、アップグレードを続行できません。満たされていない要件は、GUI に表示されるか、またはコマンドラインに一覧表示されます。詳細については、「 システム要件 」(『 ZENworks 11 SP2 インストールガイド 』)を参照してください。 <p>.NET 前提条件が満たされていない場合は、説明内の [ZENworks] リンクをクリックして ZENworks にバンドルされているランタイムバージョンをインストールすることができます。.NET 3.5 SP1 フレームワークとそのすべての最新アップデートをインストールしたか確認します。.NET のインストール後、ZENworks アップグレードが続行します。</p>
ゾーン管理者情報	管理ゾーン管理者のログイン名とパスワードを指定します。 <p>前のステップで [いいえ] を選択した場合、デバイスは指定されたサーバとゾーン資格情報でデータベースへの接続を試みます。</p>

アップグレード情報	説明
ZENworks ライセンス登録	<p>Novell ZENworks 11 SP2 製品を、アップグレードまたはインストールした後に、有効 / 無効にします。</p> <p>注：ZENworks 11 SP2 ライセンスキーは大文字と小文字が区別されます。アップグレードウィザードでライセンスキーを指定する際、個々の文字の大文字小文字の区別を変更しないでください。</p>
	<p>このページは、ゾーン内で最初に ZENworks 11 SP2 アップグレードプログラムを実行するときだけにだけ表示されます。</p>
	<p>ZENworks 11 SP2 Full Disk Encryption の有効化</p>
	<p>次のいずれかの操作を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「評価」状態を有効にするには、その [評価] チェックボックスを選択します。 ZENworks 11 Full Disk Encryption が、60 日間のトライアルライセンスでインストールされます。 ◆ 「アクティブ」状態を有効にするには、ZENworks 11 SP2 アップグレードの購入時に取得したライセンスキーを指定します。 ライセンスキーを指定すると、[評価] チェックボックスが自動的にオフになります。
ZENworks 診断センター	<p>ZENworks 診断センターを使用して、データベースを検証します。詳細については、37 ページの「ZENworks 診断センターの実行によるデータベースの検証」を参照してください。</p> <p>注：データベースの検証は、最初のプライマリサーバを ZENworks 11 SP2 にアップグレードする前に実行する必要があります。それ以降のサーバのアップグレードでは、データベースを検証する必要はありません。</p>
	<p>データベースを検証した後、<i>[はい、ZDC を使用してデータベーススキーマを検証しました]</i> を選択します。このオプションは、ZENworks 診断センターを使用して ZENworks データベーススキーマが正しいことを検証したことを確認します。</p>
アップグレード前の概要	<p>概要には次のフィールドが表示されます。</p> <p>ZENworks ホームディレクトリ：アップグレードする ZENworks ソフトウェアがインストールされているプライマリサーバ上の場所が表示されます。</p> <p>ゾーン名：このサーバが属する管理ゾーンの名前が表示されます。</p> <p>データベースのアップグレード：ZENworks データベースをアップグレードするかどうかを指定します。ステータスがプログラムによって自動的に確認され、アップグレードが必要かどうかチェックされます。</p> <p>情報を変更するには、[筋] をクリックします。</p>
アップグレードプロセス	<p>ハードウェアの能力によっては、アップグレードプロセスには数十分かかります。</p> <p>組み込み Sybase を使用している場合、データベース内のデータ量によっては、アップグレードにかかる時間が長くなる可能性があります。</p> <p>アップグレード中に、[キャンセル] をクリックしてアップグレードを停止できます。この場合、その時点までにアップグレードされた変更はファイル内にそのまま残ります。キャンセル後の操作の詳細については、Novell サポート (http://www.novell.com/support/) にお問い合わせください。</p>

アップグレード情報**説明**

アップグレードエラー アップグレード中にエラーが発生した場合は、このページが表示されます。詳細については、次の場所にあるログファイルを参照してください。

Windows の場合

- ◆ %ZENWORKS_HOME%\logs
 - ◆ %ZENWORKS_HOME%\logs\ZENworks_Upgrade_<タイムスタンプ>.log.xml
 - ◆ %ZENWORKS_HOME%\logs\loader-messages.log
 - ◆ %ZENWORKS_HOME%\logs\system-update-import.log
 - ◆ %ZENWORKS_HOME%\logs\system-update\<更新GUID>
 - ◆ %ZENWORKS_HOME%\logs\pre-global-actions.log

Linux の場合

- ◆ /var/opt/novell/log/zenworks
 - ◆ /var/opt/novell/log/zenworks/ZENworks_Upgrade_<タイムスタンプ>.log.xml
 - ◆ /var/opt/novell/log/zenworks/system-update/<更新GUID>
 - ◆ /var/opt/novell/log/zenworks/loader-messages.log
 - ◆ /var/opt/novell/log/zenworks/system-update-import.log
 - ◆ /var/opt/novell/log/zenworks/pre-global-actions.log

エラーを解決して、アップグレードを再開する必要があります。

アップグレード後アクション アップグレードプログラムを終了する前に、ZENworks システムステータスユーティリティを実行して、ZENworks サービスのハートビートチェックを起動するように選択できます。結果はインストールログに転記されます。

サーバの再起動 (Windows の場合のみ) Windows プライマリサーバでアップグレードが成功したら、すぐに再起動するか、後で再起動するか選択できます。

- ◆ **はい、システムを再起動します**：このオプションを選択すると、サーバが再起動されアップグレード処理が完了します。
- ◆ **いいえ、システムを後で手動で再起動します**：このオプションを選択すると、サーバの次回再起動時にアップグレード処理が完了します。

重要：アップグレード処理を完了するには、結局はサーバを再起動する必要があります。

アップグレードの完了 次のアクションを含め、前に選択したアクションが実行されます。

- ◆ ZENworks データベースをアップグレードする (最初のプライマリサーバのアップグレード時に実行)
 - ◆ プライマリサーバにインストールされている ZENworks コンポーネントすべてのアップグレード
 - ◆ ゾーンへのシステム更新のインポート (ゾーン内の管理対象デバイスのアップグレードが可能になる)
-

表 2-3 アップグレード情報-他のプライマリサーバのアップグレード

インストール情報	説明
Primary Server and Zone Credentials(プライマリサーバおよびゾーン資格情報)	アップグレード済みのプライマリサーバおよびゾーン資格情報の詳細の入力を求められます。
ZENworks Database Details(ZENworks データベース詳細)	(条件付き) デバイスが、アップグレード済みのプライマリサーバ経由でデータベースに接続できない場合、データベースに直接接続するための詳細の入力を求められます。 注: この画面は、ZENworks 10 Configuration Management SP3 または ZENworks 11 から ZENworks 11 SP2 にアップグレードしている場合にのみ表示されます。
アップグレード前の概要	[アップグレード前の概要] ページが表示される前に、サーバ上の ZENworks サービスは停止します。この時点でアップグレードをキャンセルした場合、手動で ZENworks サービスを再開する必要があります。 概要には次のフィールドが表示されます。 ZENworks ホームディレクトリ: アップグレードする ZENworks ソフトウェアがインストールされているプライマリサーバ上の場所が表示されます。 ゾーン名: このサーバが属する管理ゾーンの名前が表示されます。 データベースのアップグレード: ZENworks データベースをアップグレードするかどうかを指定します。ステータスがプログラムによって自動的に確認され、アップグレードが必要かどうかチェックされます。 情報を変更するには、[前] をクリックします。
アップグレードプロセス	ハードウェアの能力によっては、アップグレードプロセスには数十分かかります。

インストール情報 説明

アップグレードエラー アップグレード中にエラーが発生した場合は、このページが表示されます。詳細については、次の場所にあるログファイルを参照してください。

Windows の場合

- ◆ %ZENWORKS_HOME%\logs
 - ◆ %ZENWORKS_HOME%\logs\ZENworks_Upgrade_<タイムスタンプ>.log.xml
 - ◆ %ZENWORKS_HOME%\logs\loader-messages.log
 - ◆ %ZENWORKS_HOME%\logs\system-update-import.log
 - ◆ %ZENWORKS_HOME%\logs\system-update\<更新 GUID>
 - ◆ %ZENWORKS_HOME%\logs\pre-global-actions.log

Linux の場合

- ◆ /var/opt/novell/log/zenworks
 - ◆ /var/opt/novell/log/zenworks/ZENworks_Upgrade_<タイムスタンプ>.log.xml
 - ◆ /var/opt/novell/log/zenworks/system-update/<更新 GUID>
 - ◆ /var/opt/novell/log/zenworks/loader-messages.log
 - ◆ /var/opt/novell/log/zenworks/system-update-import.log
 - ◆ /var/opt/novell/log/zenworks/pre-global-actions.log

エラーを解決して、アップグレードを再開する必要があります。

アップグレード後アクション アップグレードプログラムを終了する前に、ZENworks システムステータスユーティリティを実行して、ZENworks サービスのハートビートチェックを起動するように選択できます。結果はインストールログに転記されます。

サーバの再起動 (Windows の場合のみ) Windows プライマリサーバでアップグレードが成功したら、すぐに再起動するか、後で再起動するか選択できます。

- ◆ **はい、システムを再起動します**：このオプションを選択すると、サーバが再起動されアップグレード処理が完了します。
- ◆ **いいえ、システムを後で手動で再起動します**：このオプションを選択すると、サーバの次回再起動時にアップグレード処理が完了します。

重要：アップグレード処理を完了するには、結局はサーバを再起動する必要があります。

アップグレードの完了 次のアクションを含め、前に選択したアクションが実行されます。

- ◆ ZENworks データベースをアップグレードする (最初のプライマリサーバのアップグレード時に実行)。
 - ◆ プライマリサーバにインストールされている ZENworks コンポーネントすべてのアップグレード。
 - ◆ ゾーンへのシステム更新のインポート (ゾーン内の管理対象デバイスのアップグレードが可能になる)
-

ZENworks 診断センターの実行によるデータベースの検証

初めてプライマリサーバを ZENworks 11 SP2 にアップグレードする場合、データベースを検証する必要があります。それ以降のサーバのアップグレードでは、この手順を実行する必要はありません。

- ◆ 37 ページの「組み込み Sybase データベースまたは OEM Sybase データベースの検証」
- ◆ 37 ページの「外部データベースの検証」

組み込み Sybase データベースまたは OEM Sybase データベースの検証

1 プライマリサーバのコンソールプロンプトから、次のコマンドを実行します。

- ◆ **Windows の場合**

```
cd to MEDIA_PATH/Common/tools/zdc
zdc_verifyDB.bat
```

- ◆ **Linux の場合**

```
cd to MEDIA_PATH/Common/tools/zdc
./zdc_verifyDB
```

ZENworks 診断センターは、診断テストを実行し、レポートを HTML 形式で生成します。レポートは、Windows プライマリサーバの場合は %ZENWORKS_HOME%\logs\zdcreports\%SESSION% ディレクトリ、Linux プライマリサーバの場合は /var/opt/novell/log/zenworks/zdcreports ディレクトリに、それぞれ保存されます。レポートを表示するには、index.html(report ディレクトリ)を開きます。

診断テストの詳細ログは、Windows プライマリサーバの場合は %ZENWORKS_HOME%\logs\zdcreports\zdc_zen11_verify_%SESSION%.log ディレクトリ、Linux プライマリサーバの場合は /var/opt/novell/log/zenworks/zdcreports ディレクトリに、それぞれ保存されます。

外部データベースの検証

外部 Sybase、MS SQL、または Oracle などの外部データベースを検証するには、次の手順を実行します。

1 プライマリサーバのコンソールプロンプトから、次のコマンドを実行します。

- ◆ **Windows の場合**

```
cd to MEDIA_PATH/Common/tools/zdc
zdc_verifyDB.bat -d check
```

- ◆ **Linux の場合**

```
cd to MEDIA_PATH/Common/tools/zdc
./zdc_verifyDB -d check
```

注：-d check パラメータは、データベースをマシン間で移行する場合に限り使用してください。同じマシンでデータベースをアップグレードする場合は、-d check パラメータを使用する必要はありません。

2 データベースのタイプを指定します。データベースタイプに対応する番号を入力します。

- ◆ (1) Sybase
- ◆ (2) MS-SQL
- ◆ (3) Oracle

3 次のデータベース資格情報を指定します。

- ◆ データベースサーバ IP
- ◆ ポート番号
- ◆ データベースアクセスユーザ名

注: MS SQL データベースを使用している場合、ログインに選択している認証タイプに応じた形式でユーザ名を入力します。

- ◆ Windows 認証: <名前>@<ドメイン>
- ◆ SQL Server 認証: <名前>

-
- ◆ データベースアクセスパスワード
 - ◆ データベース名

4 (条件付き) データベースが Sybase である場合、組み込み Sybase データベースかどうかの入力を求められます。該当する番号を入力します。

- ◆ (1) はい
- ◆ (2) いいえ

5 (条件付き) データベースが組み込み Sybase ではない場合、データベースエンジン名を入力します。

ZDC は、診断テストを実行し、レポートを HTML 形式で生成します。レポートは、Windows プライマリサーバの場合は %ZENWORKS_HOME%\logs\zdcreports\%SESSION% ディレクトリ、Linux プライマリサーバの場合は /var/opt/novell/log/zenworks/zdcreports ディレクトリに、それぞれ保存されます。レポートを表示するには、index.html(report ディレクトリ)を開きます。

診断テストの詳細ログは、Windows プライマリサーバの場合は %ZENWORKS_HOME%\logs\zdcreports\zdc_zen11_verify_%SESSION%.log ディレクトリ、Linux プライマリサーバの場合は /var/opt/novell/log/zenworks/zdcreports ディレクトリに、それぞれ保存されます。

2.6.2 コマンドラインを使用した Linux サーバのアップグレード

ZENworks Configuration Management 10.3.x から ZENworks 11 SP2 にアップグレードしたいプライマリサーバで、次の手順を実行します。

- 1 21 ページのセクション 2.4 「前提条件」で説明されているアップグレードの前提条件を満たしていることを確認します。
- 2 ZENworks 11 SP2 アップグレードプログラムを起動して Linux ターミナルを開き、アップグレードメディアのルートをクリックして、次のコマンドを入力します。

```
setup.sh --console
```

または

```
setup.sh -e
```

- 3 インTRODakションを確認してから、<Enter> を押して続行します。

ヒント: 「back」と入力し、<Enter> を押すと、前のインストールオプションに戻って変更を行うことができます。

- 4 使用許諾契約に同意する場合は、「1」と入力して<Enter> を押します。
デフォルト言語は英語です。使用する言語に対応する番号を選択して続行します。
同意しない場合、アップグレードは終了します。
- 5 これがアップグレードするプライマリサーバである場合は「Yes」、それ以外の場合は「No」を入力し、<Enter> を押します。
- 6 (条件付き) 前の画面で「Yes」を入力した場合、データベース詳細の入力を求められます。データベース詳細を入力し、<Enter> を押します。ステップ 8 に進みます。
- 7 (条件付き) 前の画面で「No」を入力した場合、アップグレード済みのプライマリサーバの詳細およびゾーン資格情報の入力を求められます。要求された詳細を入力し、<Enter> を押します。
- (条件付き) デバイスがプライマリサーバに接続できた場合、ステップ 14 に進みます。
 - (条件付き) デバイスがプライマリサーバに接続できない場合、データベース詳細の入力を求められます。詳細を入力し、ステップ 14 に進みます。
- 8 [ゾーンの管理ユーザの名前を入力します。] 行で、<Enter> を押してデフォルト (Administrator) をそのまま使用するか、または管理者名を指定して<Enter> を押します。
- 9 管理者のパスワードを指定して<Enter> を押します。
- 10 デバイスがデータベースサーバに接続できた場合、ステップ 11 に進みます。接続できなかった場合、データベース詳細の入力を求められます。データベース詳細を入力し、<Enter> を押します。
- 11 ZENworks 診断センターを実行し、データベースを検証します。詳細については、[37 ページの「ZENworks 診断センターの実行によるデータベースの検証」](#)を参照してください。

注: データベースの検証は、最初のプライマリサーバを ZENworks 11 SP2 にアップグレードする前に実行する必要があります。それ以降のサーバのアップグレードでは、データベースを検証する必要はありません。

- 12 ZENworks データベーススキーマが正しいことを、ZENworks 診断センターを使用して検証したと確認します。
確認しないと、アップグレードを続行できません。
- 13 (最初のプライマリサーバのアップグレードまたはアップグレードするゾーンが ZENworks 10.3.x) アップグレード用に取得したライセンスキーを 1 つ指定するたびに<Enter> を押します。

注: ZENworks 11 SP2 ライセンスキーは大文字と小文字が区別されます。ライセンスキーを指定する際、個々の文字の大文字小文字の区別を変更しないでください。

ライセンスキーを指定しない場合は、単に<Enter> を押して続行します。

- 14 他のすべてのプライマリサーバで ZENworks サービスを停止し、次に<Enter> を押してローカルサーバのサービスを停止します。

アップグレードの準備をする際、管理ゾーン内にあるすべてのプライマリサーバのサービスを前もって停止しておく必要があります。アップグレードプログラムを開始する前にこれらのサービスを手動で停止した場合でも、1 を選択すれば、すべてのサービスを確実に停止できます。

アップグレード中は、データベースサービスを除く ZENworks サービスは一切実行できません。

- 15** アップグレード前の概要を確認し、<Enter> を押して続行します。

管理ゾーン内にある他のプライマリサーバをアップグレードする場合は、このステップで <Enter> を押すとアップグレードが開始します。

- 16** [インストールが完了しました] と表示されたら、<Enter> を押して続行します。

エラーが表示された場合、/var/opt/novell/log/zenworks または /var/opt/novell/log/zenworks/systemupdate/<更新GUID> にあるインストールログを参照してください。

- 17** 次の操作を実行して、ZENworks 11 SP2 が実行されていることを確認します。

- ◆ **特定のサービスコマンドを使用した Linux サービスのチェック** サーバで次のコマンドを実行します。

```
/etc/init.d/novell-zenserver status
```

```
/etc/init.d/novell-zenloader status
```

サービスが実行されていない場合は、次のコマンドを実行して ZENworks サービスを開始します。

```
/etc/init.d/novell-zenserver start
```

```
/etc/init.d/novell-zenloader start
```

- ◆ **設定コマンドを使用して Linux サービスをチェックする** サーバで次のコマンドを実行します。

```
/opt/novell/zenworks/bin/novell-zenworks-configure -c SystemStatus
```

これによりすべての ZENworks サービスおよびその状態が一覧表示されます。

サービスを実行するには、次のコマンドを実行してください。

```
/opt/novell/zenworks/bin/novell-zenworks-configure -c Start
```

- ◆ **ZENworks コントロールセンターの実行** ネットワーク内の任意のデバイスの Web ブラウザで、次の URL を使用して ZENworks コントロールセンターを開きます。

```
https://DNS_name_or_IP_address_of_Primary_Server/zenworks
```

これは、ZENworks をインストールした直後のサーバか、管理対象ワークステーションから実行できます。

- 18** 他のプライマリサーバをアップグレードするには、**ステップ 2** から繰り返します。

アップグレード後のタスクについては、「**インストール後のタスク**」(『ZENworks 11 SP2 インストールガイド』)を参照してください。

2.7 ZENworks Reporting Server のアップグレード

ZENworks Reporting Server が ZENworks 10 Configuration Management SP 3 を実行しているプライマリサーバにインストールされている場合は、サーバを ZENworks 11 SP2 にアップグレードすると ZENworks Reporting Server が機能しなくなります。

ZENworks Configuration Management 10 SP3 Reporting Server がインストールされている場合、同じプライマリサーバまたは別のプライマリサーバのどちらかに ZENworks 11 SP1 Reporting Server の新しいインスタンスをインストールする必要があります。ZENworks 11 Reporting Server がインストールされている場合、ZENworks 11 SP1 Reporting Server にアップグレードするか、別のマシンに ZENworks 11 SP1 Reporting Server をインストールすることができます。ZENworks 11 SP1 Reporting Server から ZENworks 11 SP2 Reporting Server へのメディアアップグレードはありません。ゾーン内に ZENworks 11 SP1 Reporting Server がインストールされている場合、ZENworks プライマリサーバを ZENworks 11 SP2 にアップグレードすると、ZENworks Reporting Server のアップグレードが完了します。

注: 新しいインストールを開始する前に、必ず既存インスタンスのレポートをバックアップしてください。なぜなら、新しいインストールが完了すると、ZENworks Reporting Server の新しいインスタンスは機能しなくなり、レポートを取得できなくなるからです。アーカイブしたレポートは ZENworks Reporting Server の新しいインスタンスに復元できません。詳細については、「ZENworks Reporting Server の既存インスタンスを廃止する前にレポートのバックアップを行う」(『ZENworks 11 SP2 Reporting Server インストールガイド』)を参照してください。

- ◆ 41 ページのセクション 2.7.1 「ZENworks 11 SP2 Reporting Server の ZENworks 10 Configuration Management SP3 Reporting Server がインストールされているプライマリサーバへのインストール」
- ◆ 42 ページのセクション 2.7.2 「ZENworks 11 SP2 Reporting Server の ZENworks 11 Reporting Server がインストールされているプライマリサーバへのインストール」
- ◆ 42 ページのセクション 2.7.3 「別のサーバへの ZENworks 11 SP2 Reporting Server のインストール」

2.7.1 ZENworks 11 SP2 Reporting Server の ZENworks 10 Configuration Management SP3 Reporting Server がインストールされているプライマリサーバへのインストール

- 1 ZENworks Reporting Server の既存インスタンスをアンインストールします。

ZENworks 10 Configuration Management SP3 Reporting Server をアンインストールする手順は、ZENworks 11 Reporting Server に使用する手順と同じです。ZENworks Reporting Server をアンインストールする方法の詳細については、「ZENworks Reporting Server のアンインストール」(『ZENworks 11 SP2 Reporting Server インストールガイド』)を参照してください。

注: ZENworks 10 Reporting Server SP3 のアンインストール中、アンインストールウィザードは、[ZENworks 11 Reporting Server のアンインストール] として不正確に表示されます。ウィザードを続行して、ZENworks 10 Reporting Server SP3 をアンインストールできます。

- 2 17 ページの第 2 章「ZENworks 11 SP2 へのプライマリサーバのアップグレード」の説明どおりにプライマリサーバをアップグレードしたことを確認します。
- 3 ZENworks Reporting Server をインストールします。

ZENworks Reporting Server のインストール方法の詳細については、『ZENworks 11 SP2 Reporting Server インストールガイド』を参照してください。

- 4 次のコマンドを実行して、21 ページのセクション 2.4.1 「管理ゾーンで最初のアップグレードを実行するための前提条件」の説明に従ってバックアップしたレポートとレポートデータを復元します。

zman report-load (ソースフォルダ)

ソースフォルダは、すべてのレポートとレポート権限のアップロード元にするフォルダの場所です。

詳細については、「レポートコマンド」(『ZENworks 11 SP2 コマンドラインユーティリティリファレンス』)を参照してください。

2.7.2 ZENworks 11 SP2 Reporting Server の ZENworks 11 Reporting Server がインストールされているプライマリサーバへのインストール

- 1 24 ページのセクション 2.6 「プライマリサーバのアップグレード」の説明どおりにプライマリサーバをアップグレードしたことを確認します。
- 2 ZENworks 11 SP1 Reporting のメディアのインストーラを使用して、ZENworks Reporting Server 11 SP2 にアップグレードします。詳細については、『ZENworks 11 SP2 Reporting Server インストールガイド』を参照してください。

2.7.3 別のサーバへの ZENworks 11 SP2 Reporting Server のインストール

- 1 17 ページの第 2 章 「ZENworks 11 SP2 へのプライマリサーバのアップグレード」の説明どおりにプライマリサーバをアップグレードしたことを確認します。
- 2 ZENworks Reporting Server をインストールします。
ZENworks Reporting Server のインストール方法の詳細については、『ZENworks 11 SP2 Reporting Server インストールガイド』を参照してください。
- 3 次のコマンドを実行して、21 ページのセクション 2.4.1 「管理ゾーンで最初のアップグレードを実行するための前提条件」の説明に従ってバックアップしたレポートとレポートデータを復元します。

zman report-load (ソースフォルダ)

ソースフォルダは、すべてのレポートとレポート権限のアップロード元にするフォルダの場所です。

詳細については、「レポートコマンド」(『ZENworks 11 SP2 コマンドラインユーティリティリファレンス』)を参照してください。

注: ゾーン内にある ZENworks Reporting Server の前のインスタンスは、いつでもアンインストールできます。ただし、このインスタンスをインストールしたままにしても、現在インストールされている ZENworks 11 SP2 Reporting Server の機能に影響はありません。

2.8 既知の問題

Windows プライマリサーバのアップグレード時には、次の問題に遭遇することがありますが、これらは無視できます。

- ◆ Windows Explorer が、数回、自動的に再起動する。
- ◆ 次のメッセージを表示したコマンドプロンプトウィンドウが自動的に開く。
For each prompt presented, press 'enter' to accept the <default> value, type 'back' to return to the previous action, or type 'quit' to exit.

2.9 トラブルシューティング

次の各セクションでは、ZENworks 11 SP2 で発生する可能性がある問題の解決方法を示します。

- ◆ 43 ページの「ZENworks 診断センターがデータベーススキーマのエラーを報告する」
- ◆ 44 ページの「ZENworks 診断センターがデータベーステーブル構造内の不一致エラーを報告する」
- ◆ 45 ページの「zman コマンド(zman rpsv)を使用して ZENworks Reporting Server のレポートをバックアップすると失敗する」

ZENworks 診断センターがデータベーススキーマのエラーを報告する

原因: ZENworks 11、アップグレード

説明: ZENworks 10 Configuration Management SP3 を新規にインストールし、ZENworks 10 Configuration Management SP3 のインストール前にデータベーススキーマを作成したプライマリサーバをアップグレードする場合、ZENworks 診断センターのデータベーススキーマベリファイアを実行すると、次のエラーが表示されます。

```
Mismatch in table 'zInstallationPackage' structure.  
Object type: [Column] , Object name: [Platform]  
Expected: [Name: Platform, Size: 255, Type: VARCHAR,  
Nullable: true]  
Found: [Name: Platform, Size: 32, Type: VARCHAR, Nullable:  
true]
```

この問題を解決しなくても、ZENworks 11 へのアップグレードを選択できますが、ZENworks 11 イメージング操作は失敗します。

考えられる原因: ZENworks 診断センターのデータベーススキーマに含まれている SQL セットは、ZENworks 10 Configuration Management SP3 のインストール時に作成されるデータベーススキーマに含まれている SQL セットとは異なります。

アクション: ZENworks 11 にアップグレードする前に、ZENworks 10 Configuration Management SP3 プライマリサーバのいずれかから、次の手順を実行してください。

- 1 適切なユーティリティを使用して、ZENworks データベースに接続します。

たとえば、DBISQL ユーティリティを使用して、外部 Sybase データベースに接続します。

1a 外部 Sybase データベースがインストールされたデバイスのコマンドプロンプトで、%ZENWORKS_HOME%\share\ASA\win32 ディレクトリ (Windows 上) または /opt/novell/zenworks/share/sybase/bin32s ディレクトリ (Linux 上) に移動します。

1b dbisql を入力します。

1c [Identification(識別)] タブで、データベース資格情報を指定します。

1d [データベース] タブで、現在実行されているデータベースサービスの名前を指定します。

1e [OK] をクリックします。

2 適切なクエリを実行します。

◆ Sybase の場合 :

```
alter table zInstallationPackage modify Platform  
nvarchar(255);
```

◆ Oracle の場合 :

```
alter table zInstallationPackage modify Platform  
varchar2(255 char);
```

◆ MS SQL の場合 :

```
alter table zInstallationPackage alter column  
Platform nvarchar(255);
```

3 プライマリサーバのコンソールプロンプトから、次のコマンドを実行します。

```
novell-zenworks-configure -c ZoneConfigUpdateConfigureAction
```

ZENworks 診断センターがデータベーステーブル構造内の不一致エラーを報告する

原因: ZENworks 11、アップグレード

説明: ZENworks 10 Configuration Management SP3 プライマリサーバが、ZENworks 10 Configuration Management SP2 より前にセットアップされた MS SQL Server データベースに対して設定されたゾーンに存在する場合は、サーバを ZENworks 11 にアップグレードする前に ZENworks 診断センターのデータベーススキーマバリファイアを実行すると、次のエラーが発生します。

```
Mismatch in table 'zPolicyDef' structure.  
Object type: [Column] , Object name: [ComponentName  
Expected: [Name: ComponentName, Size: 64, Type: VARCHAR,  
Nullable: true]  
Found: [Name: ComponentName, Size: 64, Type: VARCHAR,  
Nullable: false]
```

考えられる原因: ZENworks 10 Configuration Management SP2 より前にセットアップされたゾーンのデータベーススキーマに含まれる SQL セットが、ZENworks 診断センターのデータベーススキーマに含まれる SQL セットと異なります。

アクション: ZENworks 11 にアップグレードする前に、ZENworks 10 Configuration Management SP2 より前にセットアップされた MS SQL Server データベースに対して設定されたゾーン内の ZENworks 10 Configuration Management SP3 プライマリサーバのどれかから、次の手順を実行します。

1 Microsoft SQL Server Management Studio ユーティリティなどの適切なユーティリティを使用して、ZENworks データベースに接続します。

2 次のクエリを実行します。

```
alter table zPolicyDef alter column ComponentName  
nvarchar(64) null;
```

zman コマンド (zman rpsv) を使用して ZENworks Reporting Server のレポートをバックアップすると失敗する

原因: ZENworks 11、アップグレード

説明: ZENworks Reporting Server を ZENworks Configuration Management 10.3.0/10.3.1 から ZENworks 11 にアップグレードするには、最初にすべてのレポートをバックアップする必要があります。zman コマンド (zman rpsv) を実行してレポートおよびレポートデータをバックアップすると、エラーを受け取ります。

アクション: ZENworks Configuration Management 10.3.0/10.3.1 を ZENworks 11 にアップグレードする前に、次のステップを実行します。

1. ZCM 10.3.0/10.3.1 - ZRS レポートバックアップパッチをダウンロードし、インストールします。パッチの詳細については、[Novell Support Knowledgebase \(http://support.novell.com/search/kb_index.jsp\)](http://support.novell.com/search/kb_index.jsp) の TID 7007852 を参照してください。
2. zman report-save コマンドの実行により、レポートとレポートのデータをバックアップします。

zman コマンドの詳細については、「[レポートコマンド](#)」(『ZENworks 11 SP2 コマンドラインユーティリティリファレンス』)を参照してください。

ZENworks 11 SP2へのサテライトと 管理対象デバイスのアップグレード

管理対象デバイスとサテライトに次のバージョンのいずれかがインストールされている場合は、ZENworks 11 SP2 にアップグレードできます。

- ◆ ZENworks 10 Configuration Management SP2 (10.2.2)
- ◆ ZENworks 10 Configuration Management SP3 (10.3)
- ◆ ZENworks 10 Configuration Management SP3 (10.3.1)
- ◆ ZENworks 10 Configuration Management SP3 (10.3.2)
- ◆ ZENworks 10 Configuration Management SP3 (10.3.3)
- ◆ ZENworks 10 Configuration Management SP4 (10.3.4)
- ◆ ZENworks 11
- ◆ ZENworks 11 SP1
- ◆ ZENworks 11 SP1a

ZENworks Configuration Management 10.2.2/10.3.x がインストールされた Windows 2000 管理対象デバイスは、ZENworks 11 SP2 で管理対象デバイスのプラットフォームとして Windows 2000 がサポートされていないので、アップグレードできません。ただし、ZENworks Configuration Management 10.2.2/10.3.x がインストールされた Windows 2000 管理対象デバイスは、ZENworks 11 SP2 プライマリサーバと通信することはできます。

管理対象デバイスとサテライトを ZENworks 11 にアップグレードするには、次の各セクションを参照してください。

- ◆ [45 ページのセクション 3.1 「サテライトまたは管理対象デバイスをアップグレードするための前提条件」](#)
- ◆ [46 ページのセクション 3.2 「サテライトと管理対象デバイスのアップグレード」](#)
- ◆ [47 ページのセクション 3.3 「既知の制限事項」](#)

3.1 サテライトまたは管理対象デバイスをアップグレードするための前提条件

サテライトまたは管理対象デバイスを ZENworks Configuration Management 10.2.2/10.3.x から ZENworks 11 にアップグレードする前に、次のタスクを完了する必要があります。

- ◆ デバイスが ZENworks 11 SP2 の最小システム要件を満たすことを確認します。
詳細については、「[管理対象デバイスの要件](#)」(『ZENworks 11 SP2 インストールガイド』)を参照してください。
- ◆ Microsoft .NET 3.5 SP1 以上のフレームワークとその最新の更新がデバイスにインストールされ、実行していることを確認します。
- ◆ Windows Installer 3.1 以上がインストールされていることを確認します。

- ◆ (条件付き) ZENworks Configuration Management 10.2.2/10.3.xからZENworks 11にアップグレードする場合、ZENworks Endpoint Security Management クライアントがデバイスにインストールされていないことを確認します。デバイスにクライアントがインストールされている場合は、デバイスを ZENworks 11 SP2 にアップグレードする前に、クライアントをアンインストールする必要があります。
- ◆ ゾーン内のすべてのプライマリサーバが ZENworks 11 SP2 にアップグレードされたことを確認します。
- ◆ ステージごとにシステム更新を展開するように選択する場合は、作成するステージに少なくとも1つのステージメンバー(個々のデバイスとデバイスを含むグループ)が含まれるようにします。
- ◆ Windows Vista 管理対象デバイスの ZENworks 10 Configuration Management SP3 (10.3.0) が ZENworks 10 Configuration Management SP3 プライマリサーバに登録されている場合、サーバを ZENworks 11 SP2 にアップグレードした後は、管理対象デバイスはサーバに接続できません。管理対象デバイスを ZENworks 11 プライマリサーバに再接続するには、次のどちらかを実行します。
 - ◆ **オプション 1:** 管理対象デバイスを 10.3.1 にアップグレードし、次に ZENworks 11 SP2 にアップグレードします。
 - ◆ **オプション 2:** 管理対象デバイスを ZENworks 11 SP2 にアップグレードしないことを選択する場合、ZENworks Configuration Management 10.3 ゾーンからこのデバイスの登録を取り消して、ZENworks 11 SP2 プライマリサーバに登録するための `zac reg` コマンドを手動で実行します。

3.2 サテライトと管理対象デバイスのアップグレード

サテライトまたは管理対象デバイスをアップグレードするには、システム更新機能を使用します。詳細については、「ZENworks システム更新」(『ZENworks 11 SP2 システム管理リファレンス』)を参照してください。

管理対象デバイスに ZENworks 11 更新を展開する際に問題が発生したら、次のログファイルを参照してください。

Windows: `installation_path\novell\zenworks\logs\system-update\5011020000fc50000000002012030723\system-update.log`

Linux: `/var/opt/novell/log/zenworks/system-update/5011020000fc50000000002012030723/system-update.log`

アップグレードログファイルのパス内の 5011020000fc50000000002012030723 は、システム更新の GUID を示しています。

注: ZENworks Patch Management がインストールされている ZENworks の古いバージョン (10.3.x、11、11.1) からアップグレードする場合、次のパッチ管理サブスクリプションが更新されるまで、新しく追加されたデバイスで DAU が失敗する可能性があります。

サブスクリプションによって DAU バンドルが更新され、同様にバージョンが増えると、この問題は解決します。既存の ZENworks 10.x または 11 のエージェントは、すでに `analyze.exe` モジュールがインストールされているので、この問題の影響を受けません。そのため、それらのエージェントは引き続き古い DAU を実行でき、サブスクリプションサービスによって DAU バンドルが更新されたときに、更新されたパッチエージェントを受け取ります。

3.3 既知の制限事項

- ◆ ZENworks Configuration Management 10.2.2/10.3.xからZENworks 11への管理対象デバイスのアップグレード時には、アップグレードが成功の場合でも、エラーメッセージまたは警告がZENworks コントロールセンターに不正確にログされることがあります。

アクション: エラーメッセージを無視し、管理対象デバイスをリフレッシュします。

ZENworks Virtual Appliance 11 SP2 へのアップグレード

4

- ◆ [49 ページのセクション 4.1 「ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance から ZENworks Virtual Appliance 11 SP2 へのアップグレード」](#)
- ◆ [54 ページのセクション 4.2 「ZENworks Virtual Appliance 11 から ZENworks Virtual Appliance 11 SP2 へのアップグレード」](#)

重要 : ZENworks Virtual Appliance をバージョン 10.3.x から 11.2 へアップグレードする場合と、バージョン 11.x から 11.2 にアップグレードする場合は、同じアップグレードプロセスを使用しないでください。

ZENworks Virtual Appliance を 10.3.x から 11.2 にアップグレードするには、新しい ZENworks 11.2 Appliance を展開し、ZENworks 設定ウィザードで [既存アプライアンスの移行] オプションを選択します。

ZENworks Virtual Appliance をバージョン 11.x から 11.2 にアップグレードするには、ゾーン内のアプライアンス以外のサーバをアップグレードする手順に従います。

4.1 ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance から ZENworks Virtual Appliance 11 SP2 へのアップグレード

ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance から ZENworks Virtual Appliance 11 SP2 にアップグレードするには、まず、ZENworks Virtual Appliance 11 SP2 を展開する必要があります。ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance から ZENworks Virtual Appliance 11 SP2 へのアップグレードには、直接的な方法はありません。この展開は、ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance をホストしている同じ ESX サーバで実行できます。初めて ZENworks Virtual Appliance 11 SP2 をブートすると、環境設定ウィザードが起動されます。そのウィザードで、ZENworks Virtual Appliance 11 SP2 の必要なネットワーク識別情報 (IP アドレスと DNS 名) を指定する必要があります。ZENworks Virtual Appliance 11 SP2 の IP アドレスまたは DNS 名は、アップグレードのために一時的に使用されますが、その後は不要になります。

ZENworks Virtual Appliance 11 SP2 のマイグレーションウィザードは、ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance から ZENworks Virtual Appliance 11 SP2 へのアップグレードと、ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance から ZENworks Virtual Appliance 11 SP2 へのデータと設定のマイグレーションを同時に実行します。マイグレーションの完了までの時間は、ネットワークの速度、帯域幅、および移行するデータ量によって左右されます。

重要 : ZENworks Virtual Appliance 11 SP2 は、ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance のネットワーク識別情報を取得します。ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance から ZENworks Virtual Appliance 11 SP2 へのアップグレード後、ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance は電源オフになるので、このアプライアンスを管理ゾーンで使用しないようにしてください。

次の各セクションでは、ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance から ZENworks Virtual Appliance 11 SP2 にアップグレードする方法について説明します。

- ◆ 50 ページのセクション 4.1.1 「アップグレード前のタスク」
- ◆ 51 ページのセクション 4.1.2 「ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance から ZENworks Virtual Appliance 11 SP2 へのアップグレード」
- ◆ 54 ページのセクション 4.1.3 「アップグレード後のタスク」

4.1.1 アップグレード前のタスク

ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance から ZENworks Virtual Appliance 11 SP2 へのアップグレードを開始する前に、次のタスクを実行します。

- ◆ 17 ページの第 2 章「ZENworks 11 SP2 へのプライマリサーバのアップグレード」のタスクを必ず実行しておくようにします。
- ◆ ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance とそのデータベースのスナップショットを撮ります。
- ◆ ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance から、パーソナルデータ、環境設定、および自動化スクリプトをバックアップします。
- ◆ ZENworks プライマリサーバのバックアップを取ります。エラーが発生した場合、ZENworks プライマリサーバを復元できます。

バックアップの作成方法の詳細については、「ZENworks サーバおよび認証局のバックアップと復元」(『ZENworks 11 SP2 システム管理リファレンス』)を参照してください。

(条件付き) ZENworks Reporting Server がインストールされている場合は、zman レポートコマンドを使用して、レポートの信頼性の高いバックアップを取ります。

zman レポートコマンドの詳細については、サーバ上で zman マニュアルページを表示するか (man zman)、「zman(1)」(『ZENworks 11 SP2 コマンドラインユーティリティリファレンス』)を参照してください。

- ◆ ZENworks 診断センターを使用して、ZENworks データベーススキーマを検証します。
 1. zdc_verifyDB_prerequisite.zip ファイルを [Novell ダウンロード Web サイト \(http://download.novell.com/Download?buildid=Ftzf11EG9Rc~\)](http://download.novell.com/Download?buildid=Ftzf11EG9Rc~) からデバイス上の一時的な場所にダウンロードします。
 2. ダウンロードしたファイルを ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance にコピーします。
 3. ZIP ファイルの内容を一時的に適切な場所に抽出します。
 4. コンソールから、抽出した ZENworks 診断センターのファイルを含むディレクトリに移動します。
 5. 次のコマンドを実行します。

```
/bin/sh zdc_verifyDB
```

6. ZENworks11SP2_Appliance-x86_64.ova ファイルをダウンロードするか、またはマルチパートの ZENworks Appliance ZIP ファイルをダウンロードして、OVA ファイルを作成します。

マルチパートの ZENworks Appliance ZIP ファイルをダウンロードするには、次の手順を実行します。

- ◆ 次のファイルを一時的にデバイス上の適当なディレクトリにダウンロードします。

ZENworks11SP2_Appliance-x86_64.zip.001

ZENworks11SP2_Appliance-x86_64.zip.002

ZENworks11SP2_Appliance-x86_64.zip.003

ZENworks11SP2_Appliance-x86_64.zip.004

ZENworks11SP2_Appliance-x86_64.zip.005

ZENworks11SP2_Appliance-x86_64.zip.006

- ◆ 次のユーティリティのいずれかを使用して、ZENworks11SP2_Appliance-x86_64.zip.001 を展開します。

- ◆ 7-Zip バージョン 4.65 以上

- ◆ WinZip 9.x 以上

これによって、すべてのマルチパート ZENworks Appliance ZIP ファイルが自動的にマージされ、ZENworks11SP2_Appliance-x86_64.ova ファイルが作成されます。

- ◆ ZENworks Appliance OVA ファイルをインポートし、仮想インフラストラクチャに展開します。

7. (推奨) ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance と同じ ESX サーバに ZENworks Virtual Appliance 11 SP2 を展開します。
8. (推奨) ZENworks Virtual Appliance 11.2 へのアップグレードを開始する前に、ZENworks Virtual Appliance 10.3.x のスナップショットを取得します。

4.1.2 ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance から ZENworks Virtual Appliance 11 SP2 へのアップグレード

ZENworks Appliance イメージは、ZENworks 11 SP2 の 3 つのエディション (Standard、Advanced、Enterprise) すべてにバンドルされています。

- 1 ZENworks 11 SP2 ダウンロード Web サイト (<http://download.novell.com/Download?buildid=Ftzf11EG9Rc~>) から OVA ファイルをダウンロードするか、マルチパート ZENworks Appliance ZIP ファイルをダウンロードして OVA ファイルを作成します。

詳細については、ZENworks 11 SP2 のダウンロードとインストールのページ (<http://www.novell.com/documentation/zenworks112/>) を参照してください。

- 2 ZENworks Appliance のイメージをインポートすることによって、ZENworks Appliance が事前インストールされた新しい仮想マシンを作成します。

ZENworks Appliance イメージは、オープン仮想アーカイブ形式 (ZENworks11SP2_Appliance-x86_64.ova) で保存されており、VMware vSphere Client アプリケーションを使用して、VMware インフラストラクチャにインポートできます。

2a VMware vSphere Client アプリケーションを起動します。

2b [ファイル] > [OVF テンプレートの展開] の順にクリックして、[Deploy OVF Template(OVF テンプレートの展開)] ウィザードを起動します。

2c [ソース] ページで、次のオプションの1つを選択して、[次] をクリックします。

- ◆ [ファイルから選択] をクリックし、ZENworks Appliance イメージを含む .ova ファイルを参照して選択します。
- ◆ [URL から展開] をクリックして、Web サーバから .ova ファイルをダウンロードします。

2d [次へ] をクリックします。

2e プロンプトに従って、.ova ファイルの展開を完了します。

2f 展開が完了したら、[完了] をクリックします。

3 (オプション) **ステップ 2** で作成した仮想コンピュータのスナップショットを取ります。

4 ZENworks Appliance イメージのインポート先にした仮想コンピュータの電源をオンにします。

[環境設定] ウィザードが自動的に起動します。

5 [環境設定] ウィザードの [使用言語] ページで、以後、ウィザードで使用したい言語を選択し、[次] をクリックします。

6 [使用許諾契約] ページで、エンドユーザ使用許諾契約と SUSE 使用許諾契約に同意し、[次] をクリックします。

7 [キーボード] ページで、キーボードレイアウトを設定して、[次] をクリックします。

8 [ネットワーク] ページで、[ネットワークインタフェース] > [イーサネットネットワークカード] > [編集] の順にクリックして、次の ZENworks Appliance のネットワーク情報を設定します。

- ◆ ホスト名とサーバ名

サーバには、静的な IP アドレスまたは永久にリースされる DHCP アドレスを持つ必要があります。

- ◆ マシンの IP アドレス (スタティック IP アドレス用)
- ◆ サブネットマスク (スタティック IP アドレス用)
- ◆ デフォルトゲートウェイ (スタティック IP アドレス用)

アップグレード先のアプライアンスサーバの IP アドレスまたは DNS 名は、旧アプライアンスサーバのものとは異なる必要があります。ZENworks Virtual Appliance 11 SP2 サーバの IP アドレスと DNS 名が、アップグレード用に一時的に使用されます。

9 [Timezone (タイムゾーン)] ページのシステムで使用するタイムゾーンと時計の設定は、ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance の設定と一致する必要があります。[次] をクリックします。

10 [ルートパスワード] ページで、ルートパスワードを指定します。

11 [完了] をクリックします。

ZENworks 11 SP2 ウィザードが表示されます。このウィザードの起動には、数秒かかることがあります。

- 12 ZENworks 11 SP2 ウィザードで、[\[既存アプライアンスの移行\]](#) オプションを選択して、[\[次\]](#) をクリックします。
- 13 [\[IP/DNS\]](#) フィールドで、リモートアプライアンスサーバの IP アドレスまたは DNS 名を指定します。
- 14 [\[次へ\]](#) をクリックします。
- 15 [\[ルートパスワード\]](#) ダイアログボックスで、ルートパスワードを指定し、[\[OK\]](#) をクリックします。
- 16 [\[次へ\]](#) をクリックします。

ゾーン管理者の資格情報を入力するように促されます。使用できる資格情報を使用して、管理ゾーンの認証を受けます。
- 17 ゾーン内の最初のプライマリサーバをアップグレードする場合は、[ステップ 17a](#) に進み、そうでない場合は[ステップ 18](#) までスキップします。
 - 17a [\[製品のライセンス登録\]](#) ページで、製品のライセンスキーを指定して [\[次\]](#) をクリックします。
 - 17b [\[ZENworks 診断センター\]](#) ページで、[\[はい、ZDC を使用してデータベーススキーマを検証しました\]](#) チェックボックスを選択して [\[次\]](#) をクリックします。
 - 17c [\[警告\]](#) ページで、[\[次\]](#) をクリックします。
- 18 [\[アップグレード前の概要\]](#) ページで、[\[インストール\]](#) をクリックします。

アップグレードインストーラが、インストールメディアを ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance から ZENworks Virtual Appliance 11 SP2 にコピーします。アップグレードの完了後、環境設定ファイル、コンテンツ、データベース (データベースが組み込み Sybase の場合)、およびネットワーク設定 (ホスト名、IP アドレス、タイムゾーン情報、レポートなど) が ZENworks Virtual Appliance 11 SP2 にコピーされます。ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance のネットワーク設定が無効になり、ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance を搭載したデバイスの電源がオフになります。

アップグレード処理を完了するには、最終的に ZENworks Virtual Appliance 11 SP2 を再起動する必要があります。
- 19 (条件付き) ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance が ZENworks Reporting Server を使用するように設定した場合は、ZENworks Virtual Appliance 11 SP2 に最初にログインする時に ZENworks Reporting Server のウィザードが自動的に起動されます。ZENworks Reporting Server の設定が終了すると、レポートは ZENworks 11 SP2 Reporting Server にインポートされます。

ZENworks Reporting Server の設定方法の詳細については、「[事前インストールした ZENworks Reporting Server の設定](#)」(『[ZENworks Virtual Appliance 11 SP2 展開および管理リファレンス](#)』)を参照してください。
- 20 手動で ZRS を起動するには、`/var/adm/zenworks/launchZRS.sh` コマンドを実行します。

ZENworks Reporting Server ウィザードを手動で起動し、ZENworks Reporting Server を設定する方法の詳細については、「[ZENworks Reporting Server ウィザードの手動起動](#)」(『[ZENworks Virtual Appliance 11 SP2 展開および管理リファレンス](#)』)を参照してください。

4.1.3 アップグレード後のタスク

ZENworks Virtual Appliance 11 SP2 にアップグレードした ZENworks 10 Configuration Management SP3 Appliance が動的 IP アドレスを使用するように設定されている場合は、新サーバの DHCP 設定を手動で更新してから、このサーバの使用を開始する必要があります。

4.2 ZENworks Virtual Appliance 11 から ZENworks Virtual Appliance 11 SP2 へのアップグレード

ZENworks Virtual Appliance 11 は、ZENworks Configuration Management インストーラを使用して、ZENworks Virtual Appliance 11 SP2 にアップグレードできます。サーバの ZENworks 11 SP2 へのアップグレードの詳細については、[17 ページの第 2 章「ZENworks 11 SP2 へのプライマリサーバのアップグレード」](#)を参照してください。

ZENworks Configuration Management 10.2.2./10.3.x 管理対象デバイスの管理上の考慮事項

5

ZENworks 11 では、ZENworks 11 プライマリサーバから、ZENworks Configuration Management 10.2.x/10.3.x 管理対象デバイスを管理できます。次の各セクションを参照して、ZENworks 11 プライマリサーバから、ZENworks Configuration Management 10.2.x/10.3.x 管理対象デバイスを管理する上での考慮事項を理解してください。

- ◆ 55 ページのセクション 5.1「ZENworks Configuration Management 10.3.x 管理対象デバイスを管理するための ZENworks 11 サーバの準備」
- ◆ 56 ページのセクション 5.2「ZENworks Configuration 10.2.2/10.3.x デバイス用最近接サーバールールの作成と管理」
- ◆ 67 ページのセクション 5.3 「既知の制限事項」

5.1 ZENworks Configuration Management 10.3.x 管理対象デバイスを管理するための ZENworks 11 サーバの準備

ZENworks 11 サーバは、ZENworks Configuration Management 10.3.x 管理対象デバイスと互換性がありますが、10.3.x ゾーンまたは混合ゾーン (10.3.x 管理対象デバイスと 11.0 の管理対象デバイスを含む) に新規インストールされた ZENworks 11 サーバは、次の手順を経ないと、通信相手の 10.3.x 管理対象デバイスに対するコンポーネント管理機能を提供できません。

次のファイルを、ゾーン内の 10.3.x サーバまたはシステム更新された 11.0 サーバからコピーし、新たにインストールされた ZENworks 11 サーバの該当する場所で置換します。

Linux の場合：

```
/opt/novell/zenworks/install/downloads/novell-*.msi  
  
/opt/novell/zenworks/install/downloads/novell-*.msi.superceded
```

Windows の場合：

```
%ZENWORKS_HOME%\install\downloads\novell-*.msi  
  
%ZENWORKS_HOME%\install\downloads\novell-*.msi.superceded
```

新規インストールされた ZENworks 11 サーバ上のファイルのコピー先：

Linux の場合：

```
/opt/novell/zenworks/install/downloads/  
  
/opt/novell/zenworks/install/downloads/
```


3. **管理ゾーン**：適用されるフォルダルールがない場合、管理ゾーンで設定されているすべてのルールを評価します。デバイスがルールの基準を満たす場合、そのルールがデバイスの有効なルールになります。基準を満たさない場合は、デバイスにデフォルトルールを適用します。
4. **デフォルトルール**：デバイス、フォルダ、または管理ゾーンのルールが適用されない場合は、デフォルトルールがデバイスに適用されます。このルールは、デバイスにコンタクトさせたい順番にコンテンツサーバを並べただけのリストです。

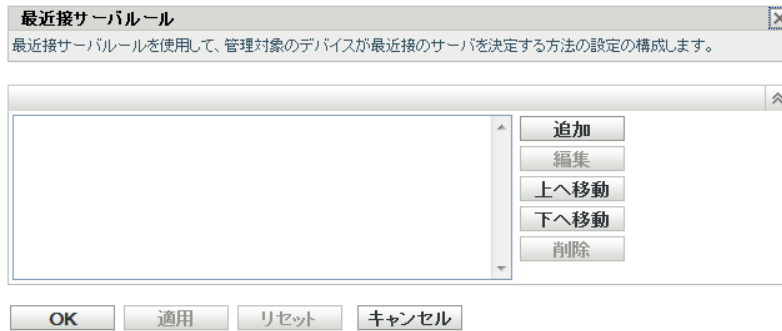
最近接サーバルールは、ZENworks Configuration Management 10.2.x/10.3.x デバイスおよび ZENworks 11 デバイスに適用できます。最近接サーバデフォルトルールをデバイスの最近接サーバの決定に使用したくない場合は、カスタマイズした最近接サーバルールを作成できます。ZENworks Configuration Management 10.2.x/10.3.x デバイスの最近接サーバルールは、3つのレベル（管理ゾーン、デバイスフォルダ、デバイス）で作成できます。管理ゾーンを ZENworks 11 に対するベースラインにすると、これらの設定は無効になります。ZENworks Configuration Management 10.2.x/10.3.x デバイス用にカスタマイズした最近接サーバルールを作成する場合は、[57 ページのセクション 5.2.1 「ZENworks Configuration 10.2.2/10.3.x デバイス用最近接サーバルールの作成」](#)を参照してください。ZENworks 11 デバイスの場合、カスタマイズした最近接サーバは、場所で設定されます。詳細については、『[ZENworks 11 SP2 システム管理リファレンス](#)』を参照してください。

次の節を参照してください。

- ◆ [57 ページのセクション 5.2.1 「ZENworks Configuration 10.2.2/10.3.x デバイス用最近接サーバルールの作成」](#)
- ◆ [67 ページのセクション 5.2.2 「ZENworks Configuration 10.2.2/10.3.x デバイス用最近接サーバルールのバックアップ」](#)

5.2.1 ZENworks Configuration 10.2.2/10.3.x デバイス用最近接サーバルールの作成

- 1 ZENworks コントロールセンターを起動します。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
 - ◆ 管理ゾーン向けの最近接サーバルールを作成するには、[設定] タブをクリックして、[インフラ管理]（[管理ゾーンの設定] パネル）> [最近接サーバルール] の順にクリックします。
 - ◆ デバイスフォルダ向けの最近接サーバルールを作成するには、フォルダの詳細ページを開いて、[設定] > [インフラ管理]（[設定] パネル）> [最近接サーバルール] の順にクリックします。
 - ◆ デバイス向けの最近接サーバルールを作成するには、デバイスの詳細ページを開いて、[設定] > [インフラ管理]（[設定] パネル）> [最近接サーバルール] の順にクリックします。



- 3 (条件付き) デバイスまたはデバイスフォルダ向けに最近接サーバルールを作成する場合、[設定の上書き] をクリックし、[最近接サーバルール] パネルをアクティブ化します。

[上書き] オプション (描画なし) は、デバイスおよびデバイスフォルダレベルでのみ表示されます。

- 4 [追加] をクリックして、[ルール構築] ダイアログボックスを表示します。



- 5 [ルール名] フィールドに、ルールの名前を指定します。

ZENworks コントロールセンターの中の最近接サーバルールのリスト内に名前が表示されます。このリストにアクセスするには、左パネルにある [環境設定] をクリックし、[環境設定] タブをクリックし、[管理ゾーンの設定] パネルをクリックして

開き、[インフラ管理] セクションをクリックして開き、最後に [最近接サーバルール] をクリックします。現在のレベルに対して定義されているすべてのルールがここに表示されます。

- 6 この最近接サーバルールに、一覧にしたサーバに最近接サーバのデフォルトルールを付加しない場合は、[最近接サーバのデフォルトルールを除外] チェックボックスをオンにします。

最近接サーバルール機能は、まずルール内で指定されているサーバを使用し、管理対象デバイスがその指定されたサーバを利用できない場合は、引き続き最近接サーバのデフォルトルール内の一覧にされている他のサーバを使用します。そのため、ルール内で指定されているサーバからのみコンテンツを取得するには、このチェックボックスをオンにして他のすべてのサーバを除外します。

- 7 [ルールロジック] フィールドを使用して、ルールの式を作成します。

式は基準オプション、演算子、および値から構成されます。たとえば、次のようにします。

DNS Name Filter equal to *.novell.com

DNS Name Filter は基準オプションで、equal to が演算子で、*.novell.com が値です。上の例では、最密サーバルールは、DNS 名が .novell.com で終わるデバイスにのみ適用されることとなります。

必要に応じて、NOT を使用して式の論理否定を実行できます。たとえば、次のようにします。

NOT DNS Name Filter equal to *.novell.com

上の例では、最密サーバルールは、DNS 名が .novell.com で終わらないデバイスにのみ適用されることとなります。

ルールには複数の式を使用できます。たとえば、次のようにします。

DNS Name Filter equal to provo.novell.com or IP Address equal to 192.168.67.12/24

次の条件を使用できます。

オプション	説明
DNS Name Filter	<p>フィルタ基準を満たす DNS 名に一致します。正確なフィルタを指定するか、クエスチョンマーク (?) やアスタリスク (*) をワイルドカードとして使用して、DNS 名の中の 1 つ以上の文字と照合します。? は、1 文字と一致し、* は 1 文字以上と一致します。例：</p> <p>provo.novell.com:novell.com のトップレベルドメインの provo サブドメインに含まれるすべてのデバイスに一致します。</p> <p>*.novell.com:novell.com のトップドメインの中のすべてのデバイス (サブドメインの中のデバイスもすべて) に一致します。</p> <p>provo?.novell.com:novell.com のトップドメインの provo1 および provo 2 のサブドメインにあるすべてのデバイスに一致します。provo12 のサブドメインにあるデバイスには一致しません。</p>

オプション	説明
IP Address /n	<p>指定した CIDR (Classless Inter-Domain Routing) ブロックに含まれる IP アドレスに一致します。CIDR を使用すると、IP アドレスのドット付きの 10 進数の部分が、8 ビットずつの 4 つのバイトから構成される 32 ビットの 2 進数に変換されます。スラッシュの後に続く数字 (/n) は、プレフィックスの長さを表わし、アドレスの左側から数えた共有初期ビットの数です。/n の数は 0 ~ 32 のいずれかで、8、16、24、および 32 が通常使われる数です。例：</p> <p>192.168.67.12/16:192.168 で始まるすべての IP アドレスに一致します。</p> <p>192.168.67.12/24:192.168.67 で始まるすべての IP アドレスに一致します。</p>

8 任意のセクションに一覧にされているサーバを設定するには、次のいずれかを行います。

8a (条件付き) 次のタスクを実行して、どのサーバリスト (コレクション、コンテンツ、設定、および認証) のそれぞれのサーバも管理できます。

タスク	手順	追加の詳細
リストにサーバを追加する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 目的のサーバリスト (コレクション、コンテンツ、設定、または認証) で [追加] をクリックします。 2. 1 つまたは複数の ZENworks サーバまたはサテライトを参照して選択します。 3. [OK] をクリックし、選択したサーバをリストに追加します。 	<p>デフォルトで、ZENworks サーバは、すべての機能 (コレクション、コンテンツ、設定、および認証) をサポートします。したがって、どのサーバリストでも、すべての ZENworks サーバを選択できます。</p> <p>ただし、サテライトは、特定の役割 (コレクション、コンテンツ、イメージング、および認証) 専用を設定できます。これは次のことを意味します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ サテライトを [コレクションサーバ] リストに選択した場合、コレクションの役割が割り当てられたサテライトだけを選択できます。 ◆ サテライトを [認証サーバ] リストに選択した場合、認証の役割が割り当てられたサテライトだけを選択できます。 ◆ サテライトを [コンテンツサーバ] リストに選択した場合、コンテンツまたはイメージングの役割が割り当てられたサテライトだけを選択できます。 ◆ サテライトは設定の役割を実行しません。したがって、[設定サーバ] リストには追加できません。 <p>サテライトの役割は、[環境設定] タブの [サーバの階層] パネルで設定されます。</p>

タスク	手順	追加の詳細
リストを並べ替える	<ol style="list-style-type: none"> 1. 目的のサーバリストで、移動するサーバ、グループ、またはL4スイッチのチェックボックスをオンにします。 2. 必要に応じて [上へ移動] または [下へ移動] のいずれかをクリックし、リスト内の順序を変更します。 3. 必要に応じて繰り返してリストを並べ替えます。 	<p>リスト内の順序によって、コンタクトするサーバの順序が決まります。最初のリスト項目 (サーバ、グループ、またはL4スイッチ) が最初にコンタクトされ、続いてリスト項目の2番目、3番目とコンタクトされます。</p> <p>リスト内の項目の順序は別々に並べることができます。このため、あるリストで他のリストよりも上位に配置するサーバを変えることにより、デバイスによる作業負荷を分散できます。例:</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ コレクションサーバ: サーバ1、グループ1、サーバ3、L4スイッチ5 ◆ コンテンツサーバ: L4スイッチ5 ◆ 設定サーバ: サーバ3、サーバ2、グループ1 ◆ 認証サーバ: サーバ1、サーバ2
リストからサーバを削除する	<ol style="list-style-type: none"> 1. サーバリストで、削除するサーバのチェックボックスをオンにします。 2. [削除] をクリックします。 	

8b (条件付き) グループを使用して、サーバへの接続をランダム化します。同じ順序のリストがすべてのデバイスに送られないように、サーバリストはデバイスに送信されるたびにランダム化されます。

たとえば、サーバリストに次の項目が含まれているとします。

- ◆ サーバ1
- ◆ グループ1(サーバ2、サーバ3、サーバ4)
- ◆ サーバ5

あるデバイスは、サーバ1、サーバ3、サーバ2、サーバ4、サーバ5というリストを受け取ります。

別のデバイスは、サーバ1、サーバ4、サーバ3、サーバ2、サーバ5という別のリストを受け取ります。

どちらの場合でもサーバ1が最初にリストされ、サーバ5が最後にリストされていますが、グループ1内のサーバの順序はランダム化されています。

次のタスクを実行して、どのサーバリスト(コレクション、コンテンツ、設定、および認証)のサーバグループも管理できます。

タスク	手順	追加の詳細
サーバグループを作成する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 目的のサーバリストで、グループに含めるサーバのチェックボックスをオンにして、[グループ] > [選択からグループを作成] の順にクリックします。 または 空のグループを作成する場合は、[グループ] > [空のグループを作成] の順にクリックします。 [グループ] > [グループへの追加] オプションを使用して、後から空のグループにサーバを追加できます。 2. グループの名前を指定し、[OK] をクリックしてグループをリストに追加します。 3. [適用] をクリックして変更を有効化します。 	
サーバをグループに追加する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 目的のサーバリストで、グループに追加するサーバのチェックボックスをオンにします。 2. [グループ] > [グループに追加] の順にクリックします。 3. 次のいずれかの操作を行います。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 選択したサーバを新しいグループに追加するには、[新規作成] を選択し、グループ名を指定して、[OK] をクリックします。 ◆ 選択したサーバを既存のグループに追加するには、[既存を選択] フィールドのリストからグループを選択し、[OK] をクリックします。 4. [適用] をクリックして変更を有効化します。 	

タスク	手順	追加の詳細
リストを並べ替える	<ol style="list-style-type: none"> サーバリストで、移動するサーバ、グループ、またはL4スイッチのチェックボックスをオンにします。 必要に応じて [上へ移動] または [下へ移動] のいずれかをクリックし、リスト内の順序を変更します。 必要に応じて繰り返してリストを並べ替えます。 	<p>リスト内の順序によって、コンタクトするサーバの順序が決まります。最初のリスト項目 (サーバ、グループ、またはL4スイッチ) が最初にコンタクトされ、続いてリスト項目の2番目、3番目とコンタクトされます。</p> <p>リスト内の項目の順序は別々に並べることができます。このため、あるリストで他のリストよりも上位に配置するサーバを変えることにより、デバイスによる作業負荷を分散できます。例：</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ コレクションサーバ: サーバ1、グループ1、サーバ3、L4スイッチ5 ◆ コンテンツサーバ: L4スイッチ5、サーバ2、サーバ3、サーバ1 ◆ 設定サーバ: サーバ3、サーバ2、グループ1 ◆ 認証サーバ: グループ1、L4スイッチ5、サーバ1、サーバ2
あるリストから別のリストにグループをコピーする	<ol style="list-style-type: none"> グループのコピー先のサーバリストで、[グループ] > [既存グループのコピー] の順にクリックします。 たとえば、[コレクションサーバ] リストから [コンテンツサーバ] リストにグループをコピーするには、[コンテンツサーバ] リストで [グループ] > [既存グループのコピー] の順にクリックします。 リストから目的のグループを選択し、[OK] をクリックしてグループをコピーします。 [適用] をクリックして変更を有効化します。 	<p>グループのサーバがまだ含まれていないリストにグループをコピーすると、リストにないサーバはグループから削除されます。たとえば、グループ1にサーバ1とサーバ2が含まれ、サーバ1を含まないリストにグループ1をコピーした場合、サーバ1はグループから削除されます。</p>
サーバをグループから削除する	<ol style="list-style-type: none"> サーバリストで、グループを展開してそのサーバを表示します。 グループから削除するサーバのチェックボックスをオンにします。 [グループ] > [グループから削除] の順にクリックし、[OK] をクリックします。 [適用] をクリックして変更を有効化します。 	<p>サーバはサーバリストからは削除されません。グループから削除されるだけです。</p>

タスク	手順	追加の詳細
グループを削除する	<ol style="list-style-type: none"> 1. サーバリストで、削除するグループのチェックボックスをオンにします。 2. [グループ] > [グループを削除] の順にクリックし、[OK] をクリックします。 3. [適用] をクリックして変更を有効化します。 	グループのサーバは削除されません。グループだけが削除されます。

8c (条件付き) L4 スイッチの背後でクラスタ化した ZENworks サーバまたはサテライトがある場合は、L4 スイッチを定義して、サーバをその定義に追加できます。これにより、L4 スイッチは、これらのサーバ間でトラフィックを分散し続けられます。

タスク	手順	追加の詳細
L4 スイッチ定義を作成する	<ol style="list-style-type: none"> 1. サーバリストで、L4 スイッチ定義に含めるサーバのチェックボックスをオンにし、[L4 スイッチ] > [選択から L4 スイッチ定義を作成] の順にクリックします。 または 空の L4 スイッチ定義を作成する場合は、[L4 スイッチ] > [空を作成] の順にクリックします。 [L4 スイッチ] > [L4 スイッチ定義に追加] オプションを使用して、後から空の定義にサーバを追加できます。 2. L4 スイッチの DNS 名または IP アドレスを指定し、[OK] をクリックして L4 スイッチをリストに追加します。 3. [適用] をクリックして変更を有効化します。 	

タスク	手順	追加の詳細
L4 スイッチ定義にサーバを追加する	<ol style="list-style-type: none"> 1. サーバリストで、L4 スイッチ定義に追加するサーバのチェックボックスをオンにします。 2. [L4 スイッチ] > [L4 スイッチ定義に追加] の順にクリックします。 3. 次のいずれかの操作を行います。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 選択したサーバを新しいL4 スイッチ定義に追加するには、[新規作成] を選択し、L4 スイッチの DNS 名または IP アドレスを指定して [OK] をクリックします。 ◆ 選択したサーバを既存の L4 スイッチ定義に追加するには、[既存の選択] フィールドのリストから L4 スイッチ定義を選択し、[OK] をクリックします。 4. [適用] をクリックして変更を有効化します。 	
リストを並べ替える	<ol style="list-style-type: none"> 1. 目的のサーバリストで、移動するサーバ、グループ、または L4 スイッチのチェックボックスをオンにします。 2. 必要に応じて [上へ移動] または [下へ移動] のいずれかをクリックし、リスト内の順序を変更します。 3. 必要に応じて繰り返してリストを並べ替えます。 	<p>リスト内の順序によって、コンタクトするサーバの順序が決まります。最初のリスト項目 (サーバ、グループ、または L4 スイッチ) が最初にコンタクトされ、続いてリスト項目の 2 番目、3 番目とコンタクトされます。</p> <p>リスト内の項目の順序は別々に並べることができます。このため、あるリストで他のリストよりも上位に配置するサーバを変えることにより、デバイスによる作業負荷を分散できます。例：</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ コレクションサーバ：サーバ 1、グループ 1、サーバ 3、L4 スイッチ 5 ◆ コンテンツサーバ：L4 スイッチ 5、サーバ 2、サーバ 3、サーバ 1 ◆ 設定サーバ：サーバ 3、サーバ 2、グループ 1 ◆ 認証サーバ：グループ 1、L4 スイッチ 5、サーバ 1、サーバ 2

タスク	手順	追加の詳細
L4 スイッチ定義からサーバを削除する	<ol style="list-style-type: none"> 1. サーバリストで、L4 スイッチ定義を展開してそのサーバを表示します。 2. L4 スイッチ定義から削除するサーバのチェックボックスをオンにします。 3. [L4 スイッチ] > [L4 スイッチ定義から削除] をクリックし、[OK] をクリックします。 4. [適用] をクリックして変更を有効化します。 	サーバはサーバリストからは削除されません。L4 スイッチ定義から削除されるだけです。
L4 スイッチ定義を削除する	<ol style="list-style-type: none"> 1. サーバリストで、[L4 スイッチ] > [L4 スイッチ定義] の順にクリックし、[OK] をクリックします。 2. [適用] をクリックして変更を有効化します。 	L4 スイッチ定義のサーバは削除されません。定義だけが削除されます。

9 管理対象デバイスに向けて、同時にデータを送信する ZENworks サーバの数を指定します。使用できるオプションは次のとおりです。

- ◆ **無制限**：デフォルトでは、有効なルールのリストにリストされたすべてのサーバに関するコンタクト情報が、管理対象デバイスに送信されます。さらに、デフォルトルールにリストされているサーバのうち、有効なルールで除外されていないサーバが、この有効なルールにリストされているサーバに追加されます。
- ◆ **制限 <number> リストごとのサーバ**：サーバと管理対象デバイス間の帯域幅を節約する必要がある場合は、同時に管理対象デバイスにデータを送信するサーバの数を指定します。

注：また、最近接サーバのデフォルトルールにある [エージェントに返されるサーバを制限する] の設定値を指定することもできます。最近接サーバルールで設定した制限によって、最近接サーバデフォルトルールで設定した制限が上書きされます。

10 終了したら、[OK] をクリックして [最近接サーバルール] リストにルールを追加します。

11 **ステップ 2** から **ステップ 10** を繰り返して追加のルールを作成します。

12 必要に応じて、ルールの作成が終了したら次の操作を行います。

- ◆ [上へ移動] および [下へ移動] ボタンを使用して、[最近接ルール] リストのルールの順序を変更します。
ルールはリストの中の順番通りに評価されます。評価したい順序でルールを配置する必要があります。
- ◆ ルールの設定を変更するには、目的のルールを選択して [編集] をクリックします。

5.2.2 ZENworks Configuration 10.2.2/10.3.x デバイス用最近接サーバールのバックアップ

ZENworks 管理ゾーンに複雑な最近接サーバールールが設定されている場合、これらのルールをバックアップ手順の中でエクスポートできます。

次の `zman` コマンドは、最近接サーバールのバックアップ時に有効です。

- ◆ **location-copy-rules (loccp):** 最近接サーバールールデータをソースデバイスまたはデバイスフォルダから、1 つ以上のコピー先デバイスまたはデバイスフォルダにコピーします。
- ◆ **location-export-rules-to-file (loctf):** 最近接サーバールールデータ (XML 形式) をファイルにエクスポートします。XML ファイルを入力として使用して、最近接サーバールールを作成またはルールを付加できます。
- ◆ **location-import-rules-from-file (locff):** 最近接サーバールールデータ (XML 形式) をファイルからインポートします。

これらのコマンドの詳細と使用方法については、「[ロケーションルールコマンド](#)」(『ZENworks 11 SP2 コマンドラインユーティリティリファレンス』) を参照してください。これらのコマンドは、ゾーンのベースラインを ZENworks 11 SP2 にした後は有効でなくなります。

5.3 既知の制限事項

- ◆ プライマリサーバを ZENworks Configuration Management 10.2.2/10.3.x から ZENworks 11 SP2 にアップグレードすると、次の機能はサポートされなくなります。
 - ◆ ZENworks Adaptive Agent の旧バージョン (version 10.2.x または 10.3.x) がインストールされている管理対象デバイスをサテライトとして昇格する。
 - ◆ 既存の 10.2.x サテライトまたは 10.3.x サテライトのサテライト役割と設定を変更する。
- ◆ サンドボックスのみのバンドルまたはポリシーがテストユーザに割り当てられ、このユーザが ZENworks 11 管理ゾーンの一部である 10.2.x または 10.3.x の管理対象デバイスにログインする場合、バンドルまたはポリシーのユーザ割り当てはどれもデバイスにフローしません。
- ◆ 管理対象デバイスでのバンドルのインストールアクションセットの動作は、バンドル変更管理の導入によって、ZENworks 11 で変更されました。この動作を理解するには、「[How Bundle Versions Affect an Install Action Set](#)」(『ZENworks 11 SP2 ソフトウェア配布リファレンス』) を参照してください。

ZENworks 11 インストールアクションセットの動作に準拠するため、ZENworks 11 管理ゾーン内の 10.2.x 管理対象デバイスでインストールアクションセットを実行する場合は、デバイスにパッチを適用する必要があります。パッチの詳細については、[Novell ダウンロード Web サイト \(http://download.novell.com/Download?buildid=CCdDG4BfuJs~\)](http://download.novell.com/Download?buildid=CCdDG4BfuJs~) を参照してください。

マニュアルの更新

A

このセクションでは、Novell ZENworks 11 SP2 の最初のリリース以降に、この『アップグレードガイド』に加えられたドキュメント内容の変更について説明します。変更が行われた日付に基づいて、変更が一覧表示されています。

この製品のドキュメントは、HTML および PDF の 2 つの形式で Web にて提供されています。HTML および PDF ドキュメントにはこのセクションに一覧表示された変更が反映され、最新の状態に保たれています。

使用している PDF ドキュメントが最新のものであるかどうかを知る必要がある場合、PDF ドキュメントの表紙の発行日を参照してください。

このドキュメントは次の日付に更新されました。

- ◆ [69 ページのセクション A.1 「2012 年 3 月 20 日 : 11 SP2」](#)

A.1 2012 年 3 月 20 日 : 11 SP2

次のセクションが更新されました。

場所	更新内容
9 ページの第 1 章「ZENworks 11 SP2 の新機能」	この新しい章をガイドに追加しました。
17 ページの第 2 章「ZENworks 11 SP2 へのプライマリサーバのアップグレード」	24 ページのセクション 2.6「プライマリサーバのアップグレード」 次のセクションをアップデートしました。 <ul style="list-style-type: none">◆ 36 ページの「ZENworks 診断センターの実行によるデータベースの検証」

